

H27年度の取り組みの総括

	取り組み内容	成果	課題
<p>小さなビジネス</p> <p>【推進目的】 「小さなビジネス」の発掘、育成を推進し、中山間地域における住民力を高め、地域の元気づくりを進める</p> <p>【定義】 以下の三つの視点から県の支援が必要な加工品づくり等の取り組み</p> <p>①集落活動センターにつながる取り組み ②地域APを目指す取り組み ③地域において継続が不可欠な取り組み</p>	<p>【個々の取り組みに応じた具体的な支援】 各地域本部でピックアップした「小さなビジネス」に対して、個々の課題や方向性を明らかにしたうえで、具体的なサポートを実施</p> <p>【小さなビジネス向け補助金の活用】 ・少額の機器購入や商談会への参加経費等、ハード・ソフト面で支援を行う ・H27年度補助金実績 7市町村 8件 合計 4,962千円 (H28・1末)</p> <p>【地域づくりアドバイザー・産業振興アドバイザーの活用】 H27活用実績 2件(延べ5回)</p>	<p>【新たな案件の掘り起こし】 H27年度新規案件数 6件</p> <p>【個々の取り組みの主な成果】 ・加工品や新メニューの商品化 ・設備投資による生産体制の強化 ・販路拡大に向けた動き ・商品の売上増 ・新規雇用の創出</p> 	<p>【集落活動センター事業への支援】 今後設置件数が増える集活センターの安定した収益源とするため、センターが取り組む経済活動に対する十分な支援が必要</p> <p>【小さなビジネスの発掘】 集活センターの取り組みにつなげる、地域APのすそ野を広げるという観点から、引き続き新規案件の掘り起こしが必要</p> <p>【個々の取り組みの課題】 ・販路開拓 ・商品のブラッシュアップ ・担い手の不足 ・運営体制の強化</p>

H28年度の取り組み

<p>拠点ビジネス</p> <p>【事業体】 第三セクターや農協など、地域の中核的な事業体</p> <p>【事業形態】 いくつかの「小さなビジネス」を集約しながら多角的なビジネスに取り組む</p> <p>【性格】 採算性のみを追求するのではなく、むしろ採算性が悪くても、地域や集落の活性化に産業面から寄与する中山間対策のけん引役となる取り組み</p>	<p>【地域AP実行支援チームによる支援】 ・拠点ビジネスの取り組み9件 ・仕組みづくりを行っている取り組み5件</p> <p>・個々の課題等に応じた具体的なサポート</p> <p>・産業振興アドバイザーの派遣 H27活用実績 2件(延べ7回)</p>	<p>【新たな拠点施設のオープン】 ・室戸市「キラメッセ室戸」薬市加工場(H27.8オープン) ・四万十市「よって西土佐」(H28.4オープン予定)</p> <p>【個々の拠点施設の主な成果】 ・来場者数や売上の増 ・地域おこし協力隊の着任 ・新規雇用の創出</p>	<p>【拠点ビジネスの定着】 ・安定的な事業体の運営 ・商品の品ぞろえや、安定した供給体制 ・情報発信機能の強化</p> <p>【拠点ビジネスのさらなる広がり】 拠点ビジネスの展開が一定進んだものの、全ての市町村での展開には至っていない。</p>	<p>◆集活センターの経済活動の促進 集活センターの経済活動を芽出し段階から「小さなビジネス」に位置付け支援</p> <p>◆新たな案件の掘り起こし H28～H31の4年間での新規案件目標数 22件</p> <p>◆個別案件に対するサポート 補助金の活用やアドバイザー派遣等を通じて、個々の課題に対応した効果的な支援を行う</p>
				<p>◆地域APの実行支援チームによるサポート ・各種補助金や産業振興アドバイザーの活用等による支援を実施し、事業体の経営安定化や、関連する「小さなビジネス」へのプラスの効果につながるよう取り組んでいく</p> <p>◆新たな「拠点ビジネス」の可能性の検討</p>

H27 小さなビジネス一覧表

資料 1-4-①

H28-2-9 計画推進課

【分類】 集活センター：◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり 地域AP：○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

地域	NO	市町村(地区)	取組の概要(主要商品等)	取組主体	集活C	地域AP	特記事項(主な動き)	地域	NO	市町村(地区)	取組の概要(主要商品等)	取組主体	集活C	地域AP	特記事項(主な動き)		
安芸	1	室戸市 黒見・中川内・中の川・崎山・中尾地区	柑橘、茶、梅等の加工品	黒見・中川内・中の川・崎山・中尾地区の農家	☆	☆	・黒見集会所兼加工所の新設により取組の活発化 (H27) ・庭先集荷による販売額712千円 4月～12月(中川内)	高橋	1	須崎市 大間地区	手づくりすき味噌	JA土佐くろしお女性部	○	NO.4	・補助金を活用し、自動発酵機を整備予定 12月末までの販売額 381千円(対前年比106%) ・直販所統合後の需要に応じた生産計画の検討		
	2	室戸市 崎山地区	室戸梅髪ミスト	崎山常会(製造:細ミュージズ)	☆	☆	・地域のイベント等で販売活動を行ったほか、ふるさと納税の返礼品にも採用。販売実績361本(1月～12月)		2	中土佐町 大野見地区	七面鳥	大野見七面鳥生産組合			・補助金を活用し、真空包装機等を導入(H26) ・売上高:473万円 12月末(対前年比:97.3%) ・地元保育所で食育授業の実施		
	3	室戸市	水産物加工物	(一社)うみ路	-	☆	・他事業者と連携し、スジアオノりのアイスクリームを開発し、販売を開始する(8月～) ・1月より貝類等の養殖実験開始		3	緒原町 初瀬地区	鷹取キムチ、鷹取ドレッシング、焼肉のたれ	鷹取キムチの里づくり実行委員会	◎	NO.37	・「集活センターはつせ」の活動の一環として、チムシルパン・レストラン鷹取がオープン(H27.3) ・レストランの食材や土産品として販売増につなげている。 ・集活センター「奥四十の郷」運営計画の策定 ・「不入の茶」のH27の販売額 251千円(H26:174千円)		
	4	室戸市 黒見地区	深層水米	黒見地区の農家	☆	☆	・補助金を活用し、海洋深層水を散布する噴霧器を購入(H26) ・売上高:196千円(H25)→784千円(H26) ・葉市(ふるさと納税返礼品含む)での販売実績457袋(8月～1月)		4	津野町 郷地区	地域の産品を使った加工品	郷地区活性化委員会	◎				
	5	安芸市 東川地区	入河内大根	入河内大根のこそう会	◎	NO.12	・生産量の増大 3,000本(H26)→4,000本(H27) 県立大生の協力による市での販売 ・地域住民に大根の種を配布し、生産者が昨年より倍増する(12～24名)		5	津野町 久保川地区	味噌、焼肉のたれ、田舎寿司	久保川生活改善グループ	☆		・補助金を活用し、備品整備を行う。これを機に新イベント開催計画の策定等や奥四十博への参加も決定、また新たに会員も増える。		
	6	安芸市 畑山地区	土佐ジローの燻製、肉	(有)はたやま夢楽	☆	○	NO.12		・地元高校生、地元企業と連携し商品開発を行う(H28～販売開始)・高島屋オンラインショップで鍋セットを販売開始 ・安芸市商店街でのチャレンジショップでの営業開始(11月～)	6	津野町 船戸地区	ランチボックス、惣菜等の配食サービス	せいらんの里(堂好海せいらん)	☆		・奥四十博に向けて新たな土産品を開発中(木工製品) ・新会員(30代)が参入	
	7	東洋町甲浦地区	鮮魚、水産加工品	鯛マルキョウ	☆	☆	・機動力確保と販路拡大を目的に、補助金を活用し、移動販売車を購入(H27) ・売上高 13,257千円(H26:11～H27:10) 前年比121%		7	津野町 白石地区	こんにゃく、そば、ピザ	白石地区活性化検討委員会	☆		【新規】		
	8	安田町 中山地区	自然薯	地元農家(14戸、2団体)	◎	○	NO.32		・集活センター及び高知大学と連携し地域住民協働で栽培を実施 ・補助金を活用し、自然薯加工機器の購入。規格外の自然薯活用による販売増を図る	8	四万十町 平串	ブルーベリージャム、シロップ	備せんビレッジ 四万十	☆	○	NO.10	・今年度はブルーベリー収穫量減少 ・28年3月12日開所予定の集落活動センター加工所に商品の製造を考案中。
	9	北川村 中部地区	地元産品等の直販	北川村中部地区集落活動協議会	○	○	NO.33		・北川温泉内の直販所35回開催 売上81千円(9月より改装中により休止) ・東部博関連イベント等に出店	9	四万十町 本堂・地吉	四万十しょうがのあまからに	四万十さいあい・五線の会	○	NO.16	・商品の売行き状況の確認と販売拡大していく商品の絞り込みを行う。 ・土産用として9月にびん入りを試作、商品として販売計画を立てる	
△	田野町 大野地区	農畜産物の加工品	大野倶楽部	☆	○	NO.28	【削除】: 支え合いや地域のつながりを強める地域づくり案件に移行	10	四万十町 神山	ときめき味噌	JA四万十女性部・ときめき家	○	NO.11	・補助金を活用し、自動発酵機の購入により、本格的な生産を開始(H26) ・製造された味噌はJA直販所や道の駅等へ出荷			
物部川	1	南国市 稲生	びわ葉茶	稲生びわ研究会	◎	○	NO.14	・市内レストランとの取引が決まり、10月より納入開始。	11	四万十町 大正江師	なめらかプリン、米粉シフォンケーキ	(株)エコロジー四万十			・地域イベント等への出店		
	2	南国市 白木谷	乾燥たけのこ	白木谷ゆめクラブ	☆	○	NO.14	・県外企業との取引が決まり乾燥タケノコ100kg(約75万円)を納入 ・高知大学えんむすびの受け入れ、連携も生まれる。	12	四万十町 地吉	くびつたけ、生姜の甘辛煮など	五線の会	○	NO.16	・営業活動により「道の駅なぶら」へ販路開拓 ・「くびつ茸」9月の商談後、2店舗新規納入決定(城西館・土佐山田ショッピングセ)		
	3	香美市 物部町大橋	ゆず皮加工品	奥ものべ じじばばあんぜんかい	○	○	NO.15	・販路の拡大に努めており、8件の新規取引先を獲得。 ・売上額の増加(12月末時点:1,826千円、昨年比:132%)	13	四万十町 十和地区	からいジャン、しいたけコロッケ など	(株)十和おかみさん市加工部			・補助金を活用し、直販所「とおわの台所」が完成 ・バイキングが好評(来客数:120～130人)・ふるさと納税での売上が増		
	4	香美市 香北町・物部町	観光ガイドツアー	土佐塩の道保存会		○	NO.23	【新規】	14	四万十町 十和地区	しまんと新聞ばっく	NPO法人RIVER			・イベントでの新聞バッグを活用 ・インストラクター養成講座を開催し、今年度39名のインストラクターを育成		
	5	香南市 香我美町西川	みかん、生姜等加工品	西川地区集落活動センター推進協議	◎			・みかんジャムの販売開始(H26) ・高知大学協働学部と連携し、加工品開発に向けて協議を行う	15	四万十町 十和地区	四万十うなぎたまき	JA高知はた女性部			【新規】		
高知市	1	高知市 土佐山中川地区	地域内直販所での地元農産物の加工及び販売	(有)中川開発			・補助金を活用し、照明等売り場の環境改善を図る(H26) ・高知大学との連携も継続	1	宿毛市 中角	米の生産販売	農事組合法人ファームなかつの	☆		・27年度産の米売上 371千円			
	2	高知市 土佐山高川地区	竹組加工品・竹チップ、竹粉	高知竹材センター	☆		【新規】	2	宿毛市 沿岸部	魚のすり身天ぷら、キピナゴ天ぷら、鯛めし	すくも湾漁協女性部ほか	☆		・加工施設整備を希望しているが投資リスクが高い			
	3	高知市 鏡吉原地区	地域の特産品の販売	吉原ふれあいグループ	☆		・田舎寿司づくり体験などの旅行商品化、補助金を活用し、鍋、販促活動用品を購入し、新メニューの開発(H26) 各種イベントの実施、とさ恋ツアーの受入の継続	3	土佐清水市 三崎	「芋餅」の加工販売	JA高知はた三崎支所女性部	☆		・5～6人で市所有の施設を使い随時加工 ・加工体制の充実が課題			
	4	高知市 鏡地区	猪の食肉処理及び販売	高知県中央地区猟友会鏡支部			・猪肉の質は高いと評価を受けている。 ・猟期に向けた販路の拡大が課題	4	土佐清水市 松尾	ツブツブの葉押し寿司	松尾さえずり会			・原価率の見直しにより利益率は向上 ・後継者の育成が課題			
	5	高知市 北七ツ瀬地区	四方竹、アミ、漬物などの製造・販売	七ツ瀬集落活動センター	◎	☆	【新規】	5	土佐清水市 立石	笹の葉を使った器、きし豆茶	(株)山和淡水	☆		・収益活動が成立するだけの体制づくりが必要			
嶺北	1	本山市 沢川内	しそジュース	汗見川生活改善グループ	◎	○	NO.28	・県内外イベントでPR販売を行うなど、販売本数、販売店が増加。 ・販売本数 約2,000本(H27・12月末)	6	土佐清水市 大岐	手づくりみそ	大岐はまぐり会	☆		・補助金を活用し、新パッケージが完成(H26)、地元スーパー等での販売は継続		
	2	大豊町 八川	碁石茶おかし 碁石茶あられ	八川地区住民		○	NO.5	・商品のブラッシュアップに向け、6次産業化チームを編成し、専門家のアドバイスを受ける ・東部地域の販路開拓1件増 定期取引となる	7	四万十市 西土佐口屋内	農家レストラン「しゃえんじり」	しゃえんじり	☆		・新商品(めか床セット)が完成 ・新スタッフの加入(2名) 広報誌発行開始		
	3	土佐町 石原地区	さめうら漬け 力漬け	西石原生活改善グループ	◎		・売上げは前年度並みを維持予定(売上 H25:189千円→H26:292千円) ・グループの世代交代や参加拡大が課題	8	四万十市 東富山	コンニャク、干しシイタケ、ひがしやま	東富山を守る会	☆		・休校を活用し、ひがしやま干物ハウスが完成(12月末)(小規模・個人→共同園場へ) ・四万十ドラマとの安定した取引は継続中			
	△	大川村	どんぐりのせんべい	大川村ふるさとむら社			【削除】: 作り手不在による事業中止	9	四万十市 三ツ又	地元ゆずの加工品製造販売	三ツ又ゆず加工グループ	☆		・地元高校生によるゆず収穫体験及び加工品づくり体験の実施 ・早急な後継者育成が課題			
仁淀川	1	いの町 上八川	榎田みそ、榎田首塩類、農家レストラン・弁当販売	なつめの木	☆	☆	・今年度より農家レストランを定期的に開催 ・毎週いの町内で弁当の予約販売を行う(4月～6月 20万円)	10	四万十市 西土佐江川中組	手づくりの「伝統豆腐」	西土佐中組「絆の会」			・道の駅開業(H28・4)に合わせて製造量を増やすことを検討中 ・2～3月中旬に接客に関する講習会を開催予定			
	2	いの町 上八川	ゆず味噌 珍味こんにゃく	木の瀬生活改善グループ	☆	☆	・販売拡大に伴う原材料の確保が課題 ・生産体制の検討を協議	11	大月町安満地	魚のすり身天ぷら	満天クラブ			・商談会に出店し、積極的に販促活動を実施・継続			
	3	仁淀川町 沢渡	沢渡の茶大福	鯛ピバ沢渡	☆	○	NO.1	・販売額11,064千円(H27・1月期) ・茶葉を使った新たなスイーツの開発(H28販売開始予定)	12	大月柏島	魚のすり身天ぷら・コロッケ	柏島女性加工クラブ(漁協女性部)			・町内イベント等に出店し、販促活動を継続 県内小学校で魚食活動を実施		
	4	仁淀川町 別枝	いりもち	秋葉生活改善グループ	☆	☆	・村の駅ひだかでの販売開始(7月～) 積極的な販路開拓による売上増(H28.6月期売上高3,500千円見込み 対前年比約170%)	13	三原村柚ノ木	三原碾	三原碾石加工生産組合	☆		・新規研修生1名の受け入れ ・東京・大阪で行う移住フェアへの参加			
	5	仁淀川町 上名野川	よもぎまんじゅう アメゴの塩焼き等	上名野川生産加工グループ	☆	☆	・サニーマートへの出品を継続的に行う 会員が移住者等へグループの参加を積極的に呼び掛け、マンパワーの一定維持につながっている	14	黒潮町佐賀	潮風みかん	森本みかん園			・道の駅やJA直販所と販売契約を結び販売を開始(H26・10月～)			
	6	土佐市	農産物の加工品、弁当	やさい畑～potager～		○	NO.19	・補助金を活用し商品の開発・ブラッシュアップを行う ・商品力向上のため販促アドバイザーの活用。新商品案の開発(柑橘ドレッシング)	15	黒潮町加持川	米あめ	とも工房	◎		・農家民宿の運営開始予定(H28・2月)		
△	三原村下長谷、上長谷、狼内、下切、宮ノ川						【削除】: 地域アクションプランに位置付予定	16	黒潮町浮糠	カツオギョウザ	千鳥ヶ浜工房			・3名の新規雇用(起業支援型地域雇用創造事業を活用 H26) ・カツオギョウザだけでなく黒潮関連商品の開発にもチャレンジ中			
								17	黒潮町佐賀	カツオのワラ焼きたたき	漁協女性部	○	NO.37	・補助金を活用し、県外への販促活動及びイベント等で使用する備品を購入(H26) ・県内外イベントへの継続中			
								18	黒潮町佐賀	小魚の加工品	土佐佐賀くろしお工房			・補助金を活用し器具・設備導入(H26) ・補助金を活用し、製品増産に向け、保管庫の増設を予定			
※「No」の ○新規案件 △削除案件								合計	61件								

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明(背景等)	主要商品等	集活との関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	室戸市	黒見 中川内 中の川 崎山 中尾地区	地区の農家	室戸市の集落維持・再生事業により取組を進めてきた中山間地域の集落で、それぞれの農家が農産物やその加工品を生産、キラメッセの直販市「楽市」に出荷し店頭販売するほか、東京(むらからまちから館、土佐の高知)にも出荷・販売している。	葉ゴボウ、柑橘、茶、梅、ニンニク、ラッキョウ、さつま芋、マコモダケ、キシマメ、イタドリ、かんぱ餅、ミシマサイコ及びその加工品	☆	☆	・労働力の減少 ・生産者の意欲 ・夏場の農作物不足による品ぞろえ不足 ・取引先からの要望(品目・量)に対応できていない	・生産している農家の意欲を高めるほか、新たな生産者の参入を促し、栽培品目や生産量の拡大を目指す。 ・直販所での販売品の不足に対応し、加えて高齢者の生きがいづくりもねらい、地域おこし協力隊が中心となり、一部の地区で庭先集荷を実施。	4～9月 ・地域おこし協力隊が中心となり、関係機関(農業振興センター、保健所等)とも連携し、各集落の支援にあたっている。 ・必要に応じ、地域づくり補助金の活用や取組に関わるセミナー・講座・アドバイザーの紹介等の支援を行っている。	10～3月 ・黒見 ・集会所にて特産品づくりを行うため小さなビジネス補助金を活用し、冷凍冷蔵庫と真空パック器を購入。 ・崎山 ・集会所を活用して、サツマイモの生産者グループ「さきちゃんファーム」が紅はるかを使った「芋ジャム」の製造販売を行うにあたり、必要な機器等の購入費用について、小さなビジネス補助金の申請を支援。 ・中川内 ・地域おこし協力隊に同行し、庭先集荷を支援。	4～9月 ・黒見 ・平成27年度中には梅干し・こんにゃく・漬物等の加工品をつくり楽市で販売予定。 ・中の川 ・土づくりのため休耕。2月下旬から種まき予定。1.8反のうち0.7反は柚子に転作。 ・崎山 ・ひがしやま(紅はるか)を11月から試作予定。 ・中川内 ・地域おこし協力隊が庭先集荷を行うことで、生産者の意欲が向上してきており、今後、加工品づくりの取組みが期待できる。	10～3月 ・黒見 ・「黒見山里ファミリー」(メンバー22名)として10月から梅干し(14袋)、こんにゃく(21袋)を試作販売。 ・中の川 ・乾燥ゆず種商品「美人だね!!」100袋を2月から販売予定。(前年度実績51袋) ・崎山 ・ひがしやま(紅はるか)試作開始。2月から販売予定。 ・中川内 ・庭先集荷による販売額712千円。(4月～12月実績) ・中尾 ・1月にティーバックのきしまめ茶10袋販売。	・中の川 (H26)・ミシマサイコを1.8反栽培。種約15.5kg、根約12.6kgを取穫(共に6500円/kgで越知町のヒューマンライフ土佐が買取。2月16日に出荷)。 ・平成26年2月から化粧ローション用の乾燥ゆず種「美人だね!!」、乾燥ゆず皮「ゆずっぴ」、乾燥ゆず粉末「ゆずっ粉」の販売開始。 ・中尾 ・平成26年2月からティーバックのきしまめ茶の販売開始。 ・黒見 ・平成26年度地域づくり補助金を活用し、黒見集会所を新設(旧集会所からの移転)。(27年3月)
2	室戸市	崎山地区	室戸市 崎山常会 (製造:株式会社)	室戸市の崎山台地では、風除けの垣根として椿を植えている。その椿の実を手作業で絞った椿油に海洋深層水を加え、髪と地肌が潤うスプレータイプの美髪ミストを開発し、販売を開始している。この商品開発に対し、地域づくり補助金で支援を行った。企画販売は崎山地区の住民の集まりである崎山常会。製造は室戸市の株式会社。	室戸椿美髪ミスト	☆	☆	・生産者の意欲	・原料である椿の実には、地域に豊富にあることや、製造業者の能力にも余裕があることから、販売状況による事業規模拡大の可能性は十分にある。 ・そのため、商品のブラッシュアップを行いながら、販売量や販路の開拓を積極的に行い、生産拡大を目指す。	・新商品の開発の検討や、販路開拓の支援。	・販路開拓支援	・美髪ミストは、今後、てんこすや東部地域の道の駅や海の駅でも販売していく計画。 ・現在は室戸市観光協会や高知県県生協、高知共済会館等の合計8店舗で販売中。初回製造分320本が完売し、追加製造(640本)した。	・地域のイベント等での販売活動を行ったほか、室戸市ふるさと納税の返礼品にも採用された。 ・販売数実績(1～12月):361本	美髪ミストを楽市と室戸市役所売店において平成25年12月下旬から販売を開始。 【販売数実績】 25年12月～26年3月:94本 26年4月～12月:222本
3	室戸市		(一社)うみ路	・平成23年、室戸市高岡地区において地域住民が主体となり、水産加工物の開発を行うための協議会を発足し、メジカ(ソウダガツオ)のコンフィを開発。その活動に携わっていた大学生が中心となり、平成25年に一般社団法人を設立し、製造・販売を行っている。製造には協議会メンバーであった地域住民約4名が雇用され従事している。	室戸の水産物等を活用した商品開発 乾燥アオリ、メジカのコンフィ、スマカツオのタタキ等	—	☆		・新商品の開発や販路拡大に取り組む。 ・室戸世界ジオパークセンターと連携したショップ運営を行っていく。 ・生産拡大、販路拡大に取り組んでいく。	・新商品の開発の検討や、販路開拓の支援。	・海の駅「とろむ」での貝類等収穫体験の実施に向けた地下水の取水のための占用許可申請について支援	・商品の開発 ・テストマーケティング実施協力店及び販路の開拓・確保 ・室戸市のふるさと納税返礼品として、加工品が採用された。 ・平成27年度から室戸世界ジオパークセンター内「室戸ジオカフェ」の運営を開始し、お土産品の販売、地場産品を使った飲食の提供を行っている。(自社加工品を使ったサンドイッチ等の販売) ・安芸市の冷蔵製造事業者と連携してスジアオノリのアイスクリームを開発し、販売を開始した。(H27.8～)	・海の駅「とろむ」での試掘の結果、地下水の取水が可能であったため、1月から貝類等の養殖実験を開始。	(H26) ・26年12月に事務所兼加工場を整備し、増産体制が整った。 ・東京都内飲食店への養殖スジアオノリ(生食)販売が実現(乾燥のみの販売であったが、生食販売のアドバイスを受けて営業活動を行った)

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明(背景等)	主要商品等	集落Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
4	室戸市	黒見地区	黒見地区の農家	室戸市羽根川の上流の集落である黒見地区の寒暖差に目し、地域おこし協力隊も関わりながら、室戸海洋深層水濃縮ミネラル液を使用した米を生産し、販売を行った。この商品化(パッケージ)に対し、地域づくり補助金で支援を行った。	黒見のダイヤモンド(深層水米)	☆	☆	・生産者の意欲 ・ブランド化に向けた取組み	・栽培面積を増やしていく計画。	・販路開拓に関する支援。	・販路開拓に関する支援。	・室戸市ふるさと納税の返礼品として採用予定。 ・室戸世界ジオパークセンターで開かれた青春市(9/20～21)において、室戸高校生徒のデザインによる小袋ピン(32合入り)を作成し販売予定した。	・薬市(ふるさと納税の返礼品を含む)での販売実績457袋。(8/24～1/21)	(H25) ・室戸海洋深層水濃縮ミネラル液を使用した米「黒見のダイヤモンド」を栽培。薬市において、1袋2kg入り880円で約200袋を販売し、完売。売上額196千円 ・(取組んだ農家) 平成25年度:1名(10反) 平成26年度:3名(15反) 平成27年度:3名(15反) (H26) ・地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して室戸海洋深層水濃縮ミネラル液を散布するための噴霧器を購入(H26.12)。H27.3～使用。 ・県庁生協店頭で300袋、薬市で500袋完売。1袋2kg入り980円 売上額784千円
5	安芸市	東川地区	入河内大根のこそう会	安芸市の伊尾木川上流の入河内集落の伝統野菜である入河内大根を地域の特産品として集落あげて栽培に取り組んでいる。取組主体は、平成18年に14農家で結成され、入河内大根の伝承のために栽培や調理方法の研究、PR活動などに取り組んでいる。地元で期間限定の入河内大根定食として提供するほか、高知生協など高知市地域へも販売している。また、漬物などの加工品の販売も検討している。	入河内大根	◎	○ (NO.12)	・労働力の減少 ・生産者の意欲 ・大根の栽培方法	・入河内大根の種を、東川地域の方に配布し、栽培面積の拡大を図る。 ・加工品開発により付加価値を向上させる。 ・品質の良い大根ができる栽培方法を確立する	・地域おこし協力隊による「入河内大根をのこそう会」の運営、入河内大根の収穫、出荷等についての支援 ・地理的表示法の紹介	・地域おこし協力隊による「入河内大根をのこそう会」の運営、入河内大根の収穫、出荷等についての支援	・入河内大根を今まで栽培していなかった地域住民に入河内大根の種を配る事により、生産者が昨年より倍増した(12名→24名)。	・入河内大根の生産量: H26年度3,000本→H27年度4,000本 ・県立大生の協力による日曜市での入河内大根の販売	
6	安芸市	畑山地区	(有)はたやま夢菜	安芸市の中山間地域に位置する畑山集落で、採卵用に開発された土佐ジローを肉用鶏として雄を専門に飼育し、肉等の加工や販売を行っている。また、同集落で食堂・宿泊施設を運営し、土佐ジローを使ったメニューの提供等を行っている。飼育は、オス5000羽、メス600羽で卵240個/日、処理数700羽/月。販売額は年3000万円。	土佐ジローの燻製、肉	☆	○ (NO.12)	・販売力の強化 ・加工品の開発、販売 ・臭気対策 ・ヒナの安定購入 ・テレビ放映もあり需要は高まっているが、ヒナ不足などにより飼育数を増やせない状況。	・別法人である「土佐アグリード」始動による、ひな生産体制の確立 ・加工品製造も含めた販売の強化とコスト削減による経営改善 ・飼育施設の拡張(新施設の建設を計画中)	・取組主体へのイベント出店の紹介 ・必要に応じ、関係機関へのつなぎ等支援を行っている。	・安芸市本町商店街のチャレンジショップオープニングイベントのサポート	・Tシャツの販売開始(小規模事業者持続化補助金活用) ・土佐ジローの食べ比べセットをふるさと納税限定で提供開始	・安芸桜ヶ丘高校情報ビジネス科及び地元企業のダイギ醤油との商品開発(商品名:土佐ジローだし醤油(H28.4月販売開始予定)) ・高島屋オンラインショップでの土佐ジロー鍋セット販売開始 ・安芸市本町商店街のチャレンジショップでの営業(11/3から営業開始) チャレンジショップの客数: 11月:1,122人 12月:901人	
7	東洋町	甲浦地区	(株)マルキョウ	漁業者の収入は、市場動向や漁獲量により、販売価格が大幅な安値になることがあることや、安値でしか取引されない魚種もあることから不安定であり、漁業者自らが加工販売することで、付加価値向上と安定的な売上げを確保する取組を行うことになった。そのため、25年11月に団体を立ち上げ、野根の大敷で獲れる魚のブランド化を目指している。その最初の具体的な取組として、26年1月にオープンした「海の駅東洋町」で、鮮魚や刺身、干物の販売を行っている。	鮮魚、水産加工品	☆	☆	・加工場の整備や乾燥機の導入 ・販路開拓のための機動力の確保(移動販売車の導入)	・広域的な流通が可能な加工品の開発・商品化 ・お土産や贈答用のセット販売 ・高知県内での販路開拓(高知市でのイベントへ参加など) ・オーナー制による獲れたて鮮魚の販売、網元直営居酒屋など ・今後は干物や燻製等の加工品の製造・販売を強化する。	・情報提供。 ・取組状況の確認と支援策の検討。 ・県eコマースサイトへの掲載応募支援 ・地域づくり補助金(小さなビジネス)申請書類等作成支援 ・H27地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)を活用した移動販売車の購入を申請中。町内外へ販路開拓することにより、東洋町の魚のブランド化を目指す。 ・「高知家の魚応援店制度」参画事業者登録支援(6月)	・移動販売車購入について小さなビジネス補助金交付決定(H27.11.10)。 ・移動販売車購入後の販路開拓支援。	今後は干物や燻製等の加工品の製造・販売を強化する。 ・海の駅東洋町での販売実績は好調。 ・「高知家のおとりよせカタログ」(WEB版)へ掲載。(8月末まで)	・購入自動車の荷室の改装中。早期稼働を目指す。 ・H26.11～H27.10売上高 13,257千円 ・H25.11～H26.10売上高 10,878千円	・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して恒温高湿庫等の購入。 ・H25.11～H26.10売上高 10,878千円

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取組み中 ○=取組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【安芸地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明(背景等)	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
8	安田町	中山地区	地元農家(14戸、2団体)	自然薯は、安田町中山地区の特産品として生産されてきたが、新規参入者もなく、生産者数の減少と高齢化が顕著になっている。 24年度で、出荷戸数9戸、栽培面積80a、売上金額4,500千円。	自然薯	◎	○ (NO.32)	・労働力の減少 ・生産者の意欲 ・加工品の開発	・平成25年度開設した集落活動センターと連携した経済活動として、生産体制の強化と付加価値の向上に取り組んでいく。	・中山地区における生産拡大に関する支援(町単補助等) ・自然薯を活用した加工品の開発に関する検討 ・耕作放棄地整備のため、H27地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)の申請に向けて検討したが、地方創生の先行型交付金の活用に変更。(H27.8.17町補助金396千円交付決定)	・H27町小さなビジネス支援事業補助金による自然薯栽培用管理機、菓子製造用厨房機器導入(町単補助) ・H27地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)による自然薯加工機器の導入(県費100千円) ・山芋まつりの企画と開催に関する支援	・集落活動センター及び高知大学と連携し地域住民協働で植え付け作業を実施。H27年度は栽培面積拡大(4畝)。 ・地域(地域の生産農家の増加につながる機運づくりのために集落活動センターで栽培を行っている。)	・植付作業に引き続き、高知大学と集落活動センター、地域住民協働による収穫作業を実施。 ・集落活動センターとして整備された旧中山小中学校を会場に山いもまつりを開催 (H27年山いもまつり来場者数:1,400人)	・H26年度に実施した種芋購入費補助(町単 13名、2団体活用)により、H27年度の新規栽培者が7名となり、今後の生産量の拡大が見込まれる ・H26年度、集落活動センター及び高知大学と連携し、地域住民協働で試験栽培(2畝)、収穫までを実施。 ・H26年山芋まつり来場者:1,200人
9	北川村	中部地区	北川村中部地区集落活動協議会	集落の存続を目的に、地域の活性化に取り組むため、平成25年に中部地区集落活動協議会を設立し、平成25年8月から、試験的に北川村温泉ゆずの宿で地元産品を販売する直販市「北川さんちのお台所」を開始。 現在は直販市開催の他、冬至期間中の柚子玉販売や、イベントへの出店等を行っている。H27年8月末で温泉改修のため、直販市は休止となる。	地元産品等の直販	○	○ (NO.33)	・出品者(農産物)の確保 ・生産者の高齢化 ・温泉施設の改修事業(不発のため見通しが立たない)	・集落活動センターの立ち上げに向けた協議会の事業の一つとして取り組む。 ・北川村温泉改修後は常設の直販コーナーを設置する。	・地元生産者と温泉との直販体制の整備に対する支援 ・休耕田を活用した花畑づくり、関連イベント運営に対する支援 ・先進地視察(黒潮町蜷川地区)を実施。(H27.8)	イベントの出店や新たな取り組みに向けての支援 (村観光びらきへの出店、女性の活動の芽出し)	・H27年度(～H27.8月末)直販市35回開催、売上81千円 ・休耕田での菜の花開花によるイベントを開催し、村の野菜や加工品の販売を行った(H27.4.10～12 3日間で約350人来訪 売上26千円) ・休耕田のみまわり畑を東部博関連イベント「魚梁瀬森林鉄道ART&LIVE」の会場として提供。会場で、野菜や加工品を販売(H27.8.8 来訪者約80人 売上29千円)	北川村慎太郎とゆずの郷まつりへの出店(野菜、加工品、お茶等の出品) 売上 43千円	・直販市開始に向けた表示・許可関係の確認 ・H25年度温泉直販所 23回開催 売上 141千円 ・H26年度温泉直販所88回開催 売上 174千円 ・村内イベント出店3回 売上 109千円
削除	田野町 大野地区		大野倶楽部	大野大地の振興に取り組む地域団体「大野倶楽部」が主体となって、地域活性化につなげるため、農業体験メニューの開発や交流人口の拡大に取り組んでいる。	地元の農畜産物を使った加工品	☆	○ (NO.28)	・ビジネスに対する意欲 ・企画立案と事業実施時の事務局を担う人材の不在 ・今後の方向性の検討	・地域の実践者を増やす。 ・体験事業等の受け入れによる交流人口の増	【削除】 体験型観光や加工品開発のほか、農家レストランの事業化を視野に交流事業の推進に取り組んできたが、ビジネスにつながる事業展開が見込めないため、今後は地域づくりの取り組みの中で支援を行うこととする。				

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【物部川地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	南国市	稲生	稲生びわ研究会	<p>稲生は、びわの産地であり、H21年2月に地域住民が研究会を立ち上げ、びわを使った商品の開発・製造をしている。</p> <p>・研究会の構成:22名 ・びわ葉茶:通年月2回(約100袋:40g/袋)製造</p>	びわ葉茶	◎	○ (NO.14)	<p><H26年度> 生産体制の整備 ・加工機の不足 ・人手不足 ・生産工程の調整</p> <p><H27年度> 生産体制の整備 ・加工機の不足 ・人手不足 後継者の確保</p>	<p>○製造工程の見直しを行い、量、質の安定化を図る。 ○販路を拡大する。 ◆研修等への参加を促すとともに補助金等の情報を提供する。 ◆直販所や量販店への橋渡しを行う。 ◆販路拡大につながる情報の提供等、事業主体の取組を支援していく。 ○◆商品ブラッシュアップの支援</p>	<p>・テストマーケティングを踏まえて、商品のブラッシュアップについて協議 ・集落活動センター「チーム稲生」への集約も含め、後継者不足という現状を踏まえた今後の方向性について協議(随時)</p>	<p>・市内レストランからメニューに加えたいとの話があり、研究会メンバーとともに訪問(H27年10月) ・市内の事業者から原材料としてびわ葉を購入したいとの話があり、研究会の作業現場を視察(H27年11月) ・加工機(乾燥機)の購入に向けて協議(随時)</p>	<p>・テストマーケティングの結果、従来品(ティーバックではなく、茶葉がそのまま入ったタイプ)が好まれることが判明したため、新パッケージに従来品を詰めた形で販売していくよう方針が決定した。(H27年8月から販売開始)</p>	<p>・市内レストランとの取引が決まり、納入。(H27年10月から取引開始) ・購入する加工機の種類が決まり、プランが具体化した。</p>	<p><H26年度> ・ティーバックの商品化に向けた意識合わせができ、試作品が完成した。 ・関東高知県人会の大懇親会で500袋の試供品をアンケートと共に配付した(H26年11月)。 ・直販所にてテストマーケティングを実施した。(H27年1～7月)</p>
2	南国市	白木谷	白木谷ゆめクラブ	<p>タケノコ農家を中心とするメンバーが集まり、白木谷・八集集落で地域の活性化や竹林の保全のためH23年4月に設立。同年5月から製造。</p> <p>・構成:20名 ・乾燥タケノコ:5月に製造、高知市内の中華料理店や直販所等へ出荷。 ・四方竹の加工品:11月に製造、南国市内の直販所等へ出荷。</p>	乾燥タケノコ、四方竹の加工品 ・乾燥タケノコ:2m位まで伸びたタケノコ(孟宗竹)を下処理して乾燥したもの。	☆	○ (NO.14)	<p><H26年度> ・販路拡大 ・生産拠点の再整備(H26年8月台風の影響により生産拠点が被災) ・パッケージのブラッシュアップ</p> <p><H27年度> ・販路拡大 ・生産拠点の再整備 →県こうち農業確立総合支援事業費補助金を活用して整備するよう検討中。</p>	<p>○作業工程の見直しや製造機械の効率的な運用を行う。 ○県内外への販路の拡大を行う。 ◆研修等への参加を促すとともに補助金等の情報を提供する。 ◆直販所や量販店への橋渡しを行う。 ◆販路拡大につながる情報の提供等、事業主体の取組を支援していく。</p>	<p>・乾燥タケノコについて、県外企業との商談に向けた視察受入れの支援 ・県こうち農業確立総合支援事業費補助金申請の支援(生産拠点の再整備) ・大学との連携に向けた支援(学生の研修受入れ等)</p>	<p>・乾燥タケノコについて、県外企業との取引に向けて調整中である。 ・加工作業の共同化も含め、生産拠点の再整備について協議を行っている。</p> <p>・高知市土佐山の四方竹加工場をクラブメンバーとともに視察(H27年11月) ・高知大学えんむすび隊の1日ツアー受入れの支援(H27年11月)</p>	<p>・視察では高評価を受け、今後の取引に向けて調整中である。 ・加工作業の共同化も含め、生産拠点の再整備について協議を行っている。</p>	<p>・県外企業との取引が決まり、乾燥タケノコ100kg(約75万円)を納入。秋の季節限定メニューとして販売された。(H27年9月末～11月) ・生産拠点の再整備について、集落営農組織の立ち上げを視野に協議を行った。(⇒協議及び住民アンケートの結果、立ち上げについては断念) ・加工場の設計、総事業費、スケジュールを明確化し、クラブメンバー等で共有した。地域での協力体制ができてきた。 ・高知大学えんむすび(参加者13名)を受入れたことで、大学との繋がりが生まれ、今後も継続した受入れが期待できる。</p>	<p><H26年度> ・南国市地域特産品等研究開発事業費補助金を活用してパッケージのブラッシュアップを行った。 ・生産拠点の再整備について、集落営農組織の立ち上げを視野に協議を行った。(⇒協議及び住民アンケートの結果、立ち上げについては断念)</p>
3	香美市	物部町大柵	奥ものべじじばあんぜん会	<p>物部町を中心とした住民グループが製造・販売を行っており、商品はいずれも、無農薬(栽培期間中農薬不使用)のゆず皮と田野町の天日塩「塩二郎」を使用。</p> <p>【製造】・5～10人が月1回程度作業 【販売】・高知市及びその周辺は月1～2回程度納品 ・地域イベントに積極的に参加し販売活動 ・「土佐塩の道保存会(No.5)」とタイアップし商品を販売</p>	塩の道マーマレードしおゆず、しおゆずおかず、しおゆずびーる	○	○ (NO.15)	<p><H25年度> ・生産・販売方法の改善 ・在庫管理</p> <p><H26年度> ・生産・販売方法の改善 ・生産・販売数量管理(在庫管理)</p> <p><H27年度> ・商談相手の選別(県内流通)</p>	<p>○生産・販売方法の見直しを行い、収益の向上を図る。 ◆研修等への参加を促す。 ◆直販所や量販店への橋渡しを行う。 ◆販路拡大につながる情報の提供等、事業主体の取組を支援していく。</p>	<p>・県が主催する商談会、研修・セミナー等参加の呼び掛け ・産地視察型商談会を紹介、商談会参加に係る資料作成</p>	<p>・今年度に入り販売先が2件増(H27.7月末時点)</p>	<p>・今年度に入り販売先が8件増(H27.12月末時点)。 ・販路拡大に伴い、売上額も増加(H27.12月末時点:1,826千円。昨年比:約45万円増)</p>	<p><H26年度> ・地域内の他のグループの商品をセットにした贈答用の商品を開発した(26年11月)。 ・贈答用商品セットの販売を開始した(26年11月)。 ・販売先別の売上額の管理を開始した(26年10月)。 ・香美市まちづくり寄付金(ふるさと納税)の謝礼品として採用された(26年6月)。</p>	

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【物部川地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
4	香美市	香北町・物部町	土佐塩の道保存会	H14年発足した当該団体は廃道となっていた香美市・香南市にまたがる「土佐塩の道」を地域の歴史・文化を感じることでできるウォーキングコースとして整備(道や休憩所整備、パンフレット作成、ウォーキングガイド育成)し、地域活性化、参加者の健康づくりなどに幅広く貢献 「奥ものべじじばあぜん会」(No.3)とタイアップし、商品を販売 ・H16年「美しい日本の歩きたくない道500選」選定 ・H26年「香美市文化財」指定 ・H27年「新日本歩道紀行 文化の道100選」選定	随時 ・ガイドツアー ・年1回開催 ・30kmうおーく ・トレイルランニングレース		○	(NO.23)	・収益性が低い ・高齢化、人手不足(事務方) ○新商品開発 ○後継者育成 ◆研修等への参加を促すとともに補助金等の情報を提供し、事業主体の取組を支援していく。	・「高知家プレミアム旅行券」取扱施設への参加呼び掛け、及び参加に係る資料作成 ・「観光創生塾」へ参加呼び掛け。	・「第4回土佐塩の道トレイルランニングレース」にスタッフ参加 ・「土佐塩の道 道くさう〜く」(モニターツアー)の企画支援、及び当日スタッフ参加 ・「第8回土佐塩の道30kmうおーく」の企画・調整支援 ・補助事業予算要求資料作成支援	・「新日本歩道紀行 文化の道100選」選定(H27.9月) ・「第4回土佐塩の道トレイルランニングレース」参加者数 182名(H26:177名) ・「土佐塩の道 道くさう〜く」(モニターツアー)参加者数 20名	・「土佐塩の道30kmうおーく」企画・調整及び当日スタッフとして支援 ・「土佐塩の道トレイルランニングレース」当日スタッフとして支援 ・「新日本歩道紀行 文化の道100選」応募書類作成支援	
5	香南市	香我美町西川地区	西川地区集落活動センター推進協議会	「夢部会」内の「商品開発部」で、素材となる特産品の絞り込みを行い、加工品の開発・製造・販売をしている。	「みかん・生姜等」を使った加工品			<H25年度> ・加工品開発に参加する住民数の拡大 <H26年度> ・加工品の完成と販路開拓 <H27年度> ・加工品のブラッシュアップ、販路拡大	○加工品開発を行う。 ◆香南市と県の支援チームが常に情報共有を図り、住民の取組を支援していく。	・栽培及び商品開発支援(随時) ・大学との連携、学生受け入れについての支援(随時)	・栽培及び商品開発支援(随時) ・大学との連携、学生受け入れについての支援(随時) ・高知県集落活動センター推進事業費補助金を活用し、商品開発のサポート業務を高知大学に委託	○協議、商品開発 ・高知大学地域協働学部と加工品(みかんジャム、みかんアイス、タンポポ茶等)について課題・今後の取組を協議。分析、助言等を受ける。(10/19) ・みかんジャム試作(砂糖あり、砂糖なし)(高知大学地域協働学部学生と協働)(11/23) ・みかんジャム勉強会(フードコーディネーター)(1/25) ●販売実績 ①みかんジャム(砂糖あり) ・単価:500円/個、550円/個(生姜入り) ・売上:18,300円 ・販売場所:のいち販売店、あぐりのさとなど ②みかんアイス ・単価:300円/個 ・売上:69,300円 ・販売場所:西川花祭り(3/21～4/3)あぐりのさとミニイベント(8/8)など ●栽培・収穫実績 ③タンポポ ・自生タンポポ採取、圃場へ移植:4a(5/26)	○協議、商品開発 ・高知大学地域協働学部と加工品(みかんジャム等)について課題・今後の取組を協議。分析、助言等を受ける。(10/19) ・みかんジャム試作(砂糖あり、砂糖なし)(高知大学地域協働学部学生と協働)(11/23) ・みかんジャム勉強会(フードコーディネーター)(1/25) ●販売実績 ①みかんジャム(砂糖あり) ・単価:500円/個、550円/個(生姜入り) ・売上:206千円 ・販売場所:販売店、あぐりのさと、各種イベント会場など ②みかんアイス ・単価:300円/個 ・売上:120千円 ・販売場所:イベント会場(西川花祭り) ●栽培・収穫実績 ③タンポポ ・圃場へ移植:2a	<H26年度> ・山北みかんジャムの販売開始(26年10月～) ・生姜の砂糖煮を混ぜたみかんジャムの開発・販売開始(27年1月～) ・高知工科大学と連携し、有用植物等を使った商品開発に着手。 ●販売実績 ①みかんジャム ・単価:500円/個、550円/個(生姜入り) ・売上:206千円 ・販売場所:販売店、あぐりのさと、各種イベント会場など ②みかんアイス ・単価:300円/個 ・売上:120千円 ・販売場所:イベント会場(西川花祭り) ●栽培・収穫実績 ③タンポポ ・圃場へ移植:2a

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高知市地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置づけ	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	高知市	土佐山中川地区	(有)中川開発	地区内の直販所「とんとんのお店」での地域農産物及び加工品の販売	有機野菜 果物 四方竹 イノシシうどん			直販所の売上額は一定額で維持しているが、来客数が年々減少している。	「とんとんのお店」は、土佐山地区の情報発信基地であり、地域の魅力や商品をPRしたい。	・県が締結した(株)富士通との協定事業の一環として、土佐山地区の活性化を図ることとしており、その中で同直販所のあり方についても検討し今後改善を図っていく。	・12月19～20日の棚田キャンパルの準備作業や河川占用許可申請に関する支援。	・イベントへの来客に対する地域情報の発信についての協議に参画するなど、地域住民との結びつきが強化できた。	・棚田キャンダルも第3回となり徐々に定着してきた。高知大学との連携も継続している。	・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して、店内の照明のリニューアルや冷蔵陳列ケースの導入を行い、売場の環境改善を図ることで売上拡大につなげた。
2	新 高知市	土佐山高川地区	高知竹材センター	竹材の集荷と一次加工、及び竹チップの製造販売	竹粗加工品、竹チップ、竹粉		☆	平成28年2月に法人を設立する。地域産業クラスター項目として平成28年度9月に地域アクションプランに位置付ける予定。	竹材の集荷や一次加工の事業に取り組み、土佐山地区及び県内各地の竹材を活用した産業を創出する。					
3	高知市	鏡吉原地区	吉原ふれあいグループ	「吉原ふれあい交流館」でうどん・吉原御膳の食事を提供。 ・田舎ずしや餅を市内の直販所「鏡むらの店」で販売。 ・管理施設で入込み客との交流活動(体験学習室・ふれあい交流室・キャンプ場を活用)。 ・(株)城西館のとき恋ツアーで「田舎寿司づくり体験」などを実施。	地域の特産品の販売 茶摘みやソーメン流しでの交流活動 ・指定管理者として、吉原ふれあい交流館、バンガロー、キャンプ施設を運営 ・ソーメン流し ・茶摘み体験 ・マイ箸作り体験 ・田舎料理バイキング ・イノシシまつり ・ホテルまつり		☆	・田舎ずしや餅は直販所での人気が高いが、売上増のため、新企画及び新商品開発や既存商品の魅力度アップが必要。	・交流活動に関する組織体制を維持していく。 ・(株)城西館の着地型旅行商品「とき恋ツアー」の実績を積み、県外からの誘客に取り組む。	・猪肉を使ったメニュー検討に対するサポート。 ・ホテル祭りのPRに係る支援。	・3月のイノシシまつりの準備への支援を予定している。	・とき恋ツアーの受け入れが継続されている。 ・夏期のソーメン流しやホテルまつりはリピーターを獲得し、定着している。	・かがみ桜まつり(4/3)への参加も決まり、地区外イベントへの参加も継続している。	・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用して、新メニューのイノシシうどん用の大鍋や販売促進活動に使用する法被やのぼり旗を購入し、売り上げや交流人口の増加を図っている。 ・イノシシまつり(H27.3.1)のPR等を支援し、約60名の参加者で開催された。(イノシシうどん・イノシシ丼・イノシシ汁のセットを提供 ※イノシシうどん、イノシシ丼の商品開発)
4	高知市	鏡地区	高知県中央地区猟友会鏡支部	・猟友会の会員による共同での食肉処理及び食肉販売。 ・鏡むらの店、土佐山の「とんとんのお店」での販売に加え、市内のレストラン等との取引開始。	狩猟した猪の食肉処理の共同実施及び共同販売			・共同処理施設を最大限活用し、食品安全・衛生管理を徹底しながら、精肉の安定生産を図る必要がある。猟期に向けた販路の拡大が課題である。	・猪の解体施設を整備し、猟友会の会員が共同で運営する。 ・安定供給や品質確保の徹底によりブランド化を図る。	・猟期が11～3月のため、特に支援なし。	・11月15日から猟期が始まり、「鏡むらの店」や「とんとんのお店」などでの販売が開始された。販路開拓に係る支援を継続していく。	・精肉の質は高い評価を受けている。地域外からの視察も受け入れられており、情報交換が行われている。	同左	・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)により、電動クレーンと精肉のスライサーを購入し、作業効率を向上させるとともに商品力を高めている。 ・H26. 11. 15～H27. 3. 15の猟期は、56頭を処理した。
5	新 高知市	北七ツ淵地区	七ツ淵集落活動センター	集落活動センター事業の内の地域農産物加工・販売	四方竹キムチ、漬物などの製造・販売	◎	☆	平成28年3月13日に北七ツ淵集落活動センターを設立する。事業の一つとして農産物等の加工販売を計画している。	地域の特産物である四方竹などの加工品を開発し、製造販売することにより、農業所得の向上を図る。					

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【嶺北地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	本 山 町	沢 ヶ 内	汗見川生活改善グループ	<ul style="list-style-type: none"> 汗見川地域の婦人達の手作りのしそジュース 製造に使用するしそも生産 360ml、600円 	しそジュース	◎	○ (NO.28)	<ul style="list-style-type: none"> 生産者の高齢化 原材料の安定的な確保 加工場の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> 集落活動センターが販促活動等を支援し、製造した商品を売り切る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4～9月: 集落活動センターとして、清流館や体験交流イベントで試飲や販売店の紹介を行うとともに、県内外のイベントでPR販売を行うなど、販売本数の拡大に向けた支援を実施。 10～3月: 集落活動センターが、上半期同様の販促支援を行うとともに、12月にはポップ作成講習会を開催し、効果的なPR方法を学ぶ場を提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 4～9月: 道の駅大杉、南国 菜の市、金高堂書店など販売店が増加。 10～3月: H27.12月末現在販売本数: 約2,000本 H27.9月末現在販売本数: 約1,200本 	<ul style="list-style-type: none"> 10～3月: H27.12月末現在販売本数: 約2,000本 次年度製造時時期(H28年夏)までに全量販売見込み 		
2	大 豊 町	八 川	八川地区住民	<ul style="list-style-type: none"> 独自に販売先のルートを開拓し、また、大豊町ふるさと生産組合を通じた販売により、近隣の道の駅や大豊町農産物直販店(高知市)等へ出荷し販売している。 個人でやっており、惣菜等も製造販売している。 個人出荷で名前も一定浸透しており、生産した量は販売できている状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> (碁石茶おかし) 碁石茶の粉末を加えたおかし、昔懐かしい素朴な味のお菓子。 道の駅大杉(町内)や大豊町農産物直販店(高知市)等で販売。 80g袋入り200円 (碁石茶あられ) もち米で作ったあられに、碁石茶や青のり、ヨモギをまぶした手作りのお菓子。 道の駅大杉(町内)や大豊町農産物直販店(高知市)等で販売。 150g袋入り350円 		○ (NO.5)	<ul style="list-style-type: none"> 新たな販売先を獲得するための営業活動において、相手方に話をする最初の糸口を見出せない。 パッケージのデザインや内容量、また、新たな商品開発など、専門家のアドバイスを受けられる手段を持ち合わせていない。 手伝いで雇って欲しいという要望を受け、それに応えたいと思っているが、そのためには新たな販売先を獲得する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り扱っていたけそう販売先の情報収集、面会のアポ取りと初回の訪問に同行し、販売先開拓の糸口を作る。 ⇒需要増に伴い、地域での雇用を増やす。 消費者や販売先のニーズを拾い、場合によっては、アドバイザー派遣等により、パッケージの見直しや、地域食材を活用した新たな商品開発により、商品のバリエーションを増やす。 需要が増え、現状の生産設備で不足するようになれば、生産施設の規模拡大を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント等での販促支援などPRを実施。 H27年7月に普及所と地域本部等による6次産業化支援チームを編成し、専門家のアドバイスを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 上半期(8月)の開拓先について、試験販売後のフォローを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産した量は販売できており、売上も例年並みを維持。 販路の無かった高知県東部地域での開拓1件。(馬路温泉、1回試験的に販売。あられ20袋、おかし20袋) 	<ul style="list-style-type: none"> 上半期(8月)の開拓先から、月1回(あられ20袋、おかし20袋)ペースで発注があり、定期的な取引に繋がった。 	

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【嶺北地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置づけ	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
3	土佐町	石原地区	西石原生活改善グループ	・生活改善グループが生産販売 ・道の駅さめうらやJA土佐れいほく店舗、直販所、イベント等で販売している。 (力漬け) ・石原地区の山菜とニンニクを甘酢に漬けたもの。 ・道の駅さめうらやJA土佐れいほく店舗、直販所、イベント等で販売している。	(さめうら漬け) ・石原地区で採れた山菜を甘酢に漬けたもの。 ・道の駅さめうらやJA土佐れいほく店舗、直販所、イベント等で販売している。 (力漬け) ・石原地区の山菜とニンニクを甘酢に漬けたもの。 ・道の駅さめうらやJA土佐れいほく店舗、直販所、イベント等で販売している。	◎		・西石原集落の生活改善グループの取組で、石原地区全体の取組でない。(他集落でも婦人グループの各々ある) ・メンバーの高齢化、固定化のため早急な生産量拡大は困難と思われる。 ・原料の確保に限界がある。	・生産体制の確立等の検討	いしはらの里協議会直販部会を通じて活動の支援。イベント(よさく市)や店舗(さとのみせ)、直販所(やまさとの市)等での販路拡大等。	いしはらの里協議会直販部会を通じて活動の支援。イベント(よさく市)や店舗(さとのみせ)、直販所(やまさとの市)等での販路拡大等。	視察対応の際に、おみやげ品として購入されることも増えている。やまさとの市でも、直販所全体で毎回10万円程度の売上が上がっている。一方で、今後の生産拡大には、グループの世代交代や参加拡大が必要である。	生産した量は販売できており、売上も前年度並みを維持している。	・26年11月、直販所やまさとの市が完成し、グループでの惣菜販売等を含めて、積極的に活動している。 H26売上額 292千円(H25:189千円)
削除	大川村		大川村ふるさとむら公社	大川村”どんぐり銀行”に送られてきたどんぐりの粉を使ったせんべい。現在は試作段階で、どんぐりの有効活用手段として、今後ふるさとむら公社で商品化・販売していく予定である。	どんぐりのせんべい			・原料となるどんぐりの確保 ・事業主体:現在は大川村ふるさとむら公社 ・製品の保管(生産時期が限られるため) ・販路の確保	商品化パッケージ等の検討 製造	【削除】 どんぐりの有効活用手段として、本川の事業者へ原料を送り製造を委託していたが、今後ふるさとむら公社で商品化・販売していく予定で製造設備を導入し施策に取り組んできた。しかしながら、作り手不在の状況が続き、今後の見通しが見えない状況である。				

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【仁淀川地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	いの町	上八川	なつめの木 中央地区活性化協議会	・中央地区活性化協議会の活動の一部として、なつめの木のメンバー12人がH23年から生産を開始。「棚田みそ」のほか味噌、白味噌の試作を実施するとともに、H24年から「棚田育ちの塩麴」の加工をスタートし、塩麴を活用した和菓子の試作も行って ・H25年度から不定期でお弁当販売を開始しており、H26年度からは、7月から9月を除いて毎週火曜に弁当の製造販売を行っている。 ・H27年度からは農家レストランを定期的に開催するようにした。	棚田みそ 棚田育ちの塩麴 農家レストラン・ 弁当販売	☆	☆	・安定供給のための生産体制の確立 ・農家レストラン等開催する廃校と調理室との通路に段差があり、料理の搬入作業が危険な状態にある。 ・加工品等の貯蔵場所(冷蔵庫・冷凍庫)の容量不足 ・作業環境改善のためのエアコンの導入	・県と町による支援体制の構築 ・直販所や量販店への橋渡しにより販売量を増やす。	・味噌を活用した新商品の開発や、道の駅「633美の里」以外の販売先の検討に地域支援企画員が参加して、メンバーの意向の確認と支援策を協議 ・加工品(棚田味噌・塩麴)の保存対策、加工所設備の拡充を検討	・イベント開催時のポスター作成等を補助	・毎週火曜日にいの町内で弁当を予約販売(約30個/回) 売上(H27年4月～6月):約20万円 ・H27年度から農家レストランを定期的に(6月・10月・1月・3月の予定)に開催 売上(6月):約8万円 来客者数:約80人	・毎週火曜日にいの町内で弁当を予約販売(約30個/回) 7～9月は夏期の食品衛生のため販売休止 ・H27年度から農家レストランを定期的に(6月・10月・1月・3月の予定)に開催 売上(11月):約7万円 来客者数:約30人 1月31日には餅つき体験会を開催予定	
2	いの町	上八川	木の瀬生活改善グループ	・いの町吾北上八川地区の木の瀬生活改善グループの女性8人が、H3年頃から地域の特産品としてゆずみそと珍味こんにやくを製造販売。 ・現在、いの町内の道の駅「633美の里」で販売を行っているが、手作業のため生産量が安定していない状況。	ゆず味噌 珍味こんにやく	☆	☆	・安定供給のための生産体制の確立 ・特産品づくりの後継者確保 ・高齢化により「道の駅633美の里」以外の量販店への運搬が困難 ・生産作業時に水の濾過・殺菌等に使用する機器等の維持管理費の圧縮	・県と町による支援体制の構築 ・直販所や量販店への橋渡しにより販売量を増やす。	・販売方法や生産体制の検討に地域支援員が参加し、意向確認と支援策を協議 ・機器等の維持管理費を圧縮する方策を協議	・地区の女性グループ定例会や作業現場に向き販路の拡大について協議	・水道施設の機器について維持管理方法を模索したが、現状以上の方法が無い事が確認された	・販路拡大の方向は出されたがそれに見合う原材料の確保が困難なため、28年度に生産体制と合わせて再協議する。	・道の駅633美の里での珍味こんにやくの販売個数:800個(H26年度)
3	仁淀川町	沢渡	(株)ピバ沢渡	・平成19年、仁淀川町にターナした男性が、沢渡地区で茶の栽培を開始。平成23年に専業農家となり、煎茶、紅茶をネット等で販売するとともに、茶葉を使った大福等の加工商品開発を進め、販売を強化している。 ・加工商品の主力となる大福は、OEMで毎月約3,000個製造。県内外約10店舗での販売に加え、平成26年から、香港の高級スイーツ店のトッピング食材として納品を開始した。 ・地域振興と雇用創出を目指し「加工所兼カフェの建設計画策定」と「さらなる加工品開発」を進めている。	沢渡の茶大福	☆	○ (NO.1)	・事業計画を進めるための市場・財源調査が不足している。 ・専業農家のため、商品開発の進捗が秋冬に限られる。	・加工品の販売拡大による売上増を図るため、茶葉を使った新商品開発を進める。 ・自前の加工所兼カフェづくりによって、生産体制の確立と、地域での雇用創出を目指す。	・事業計画策定にあたり、地域支援企画員から課題の提示と検討、各種情報の提供等を行っている。	・加工所兼カフェづくりの基となる事業計画策定や新商品開発にあたり、地域支援企画員から必要に応じアドバイスや情報提供を行っている。	・H26.9～産振アドバイザーの助言等を得て、経営計画の作成、新商品開発の検討 ・H27.5～産振アドバイザー及びベンチャー支援事業等により、会計管理態勢の構築、資金繰り計画の作成 ・販売額11,064千円(H27.1月期)	・H27.5～ベンチャー支援事業等により、月次会計管理を継続実施 ・茶葉を使った新たなスイーツの開発 (H28中に販売開始予定)	・H26年の法人化においては、財務アドバイザーをはじめ地域支援企画員、農業改良普及所の連携により、立ち上げの支援を行った。 ・H26.3 1名雇用(緊急雇用) ・H26.4 法人化(個人事業者では、県外での販売に難)
4	仁淀川町	別枝	秋葉生活改善グループ	・平成7年、別枝地区の女性数名でグループを結成。地域づくり活動として地域の特産品である「いりもち」や味噌田楽等を製造し、地域イベントや街路市で販売している。地域伝統食のPRと、さらなる販路拡大を目指し、27年度から「村の駅ひだか」で販売を開始した。	いりもち (よもぎを使った地域伝統のもち)	☆	☆	・メンバー個々の組織に対する思いが様々であり、グループとしての方向性を定めるのに時間を要する。	・グループの売上を維持し、地域の伝統を次世代に引き継ぐため、県内外の販売先を積極的に開拓している。 ・「いりもち」に次ぐ新商品について、定例的に関係者や専門家と話し、事例学習とアイデア出しを重ね、開発を進めている。	・地域支援企画員が地域おこし協力隊と連携し、定例会や学習会の開催等を行っている。 ・食品業界経験者の招へい等を行い、新商品の開発にかかるアイデア構築を支援している。 ・中央西福祉保健所等との連携により、衛生管理態勢構築に関する支援を行っている。	・地域支援企画員が地域おこし協力隊と連携し、定例会や学習会に参加して、必要に応じ課題整理やアドバイスをを行っている。	・「商品開発検討会」の定期開催 ・H27.7 村の駅ひだかでの販売開始 (50パック単位取引、平均10パック販売/日)	・「商品開発検討会」の定期開催(組織面・衛生面に続いて、今後取り組むべき課題を抽出中) ・村の駅ひだかでの販売継続(平均10パック販売/日) ・積極的な販路開拓による売上増(H28.6月期売上高3,500千円見込) (前期比約70%増) ・地域おこし協力隊と連携した販売ツール(商品POP、チラシ等)作製	・H26.6 グループとしての総会を初開催(活動方針と26年度予算について協議) ・H26地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)を活用し、町が冷蔵庫や豆腐製造機等を整備 ・県食品衛生協会の生菌検査分析をサポート。中央西福祉保健所と協議、製造環境を改善 ・H26.10 まるごと高知商談会に参加 ・H26.11 食品表示アドバイス事業により表示改善 ・H26.12 まるごと高知での販売(50パック単位取引)

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【仁淀川地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
5	仁淀川町 上名野川	上名野川	上名野川生産加工グループ	・よもぎまんじゅう、わさび漬け、アメゴの塩焼き、生鮮野菜等を、地域イベントや量販店で販売。量販店とは半年単位で出店スケジュールを組んでおり、固定ファンの獲得とともに、売上の安定確保につながっている。	よもぎまんじゅう アメゴの塩焼き等	☆	☆	・地域の人口減及びキーパーソン不在により、マンパワーでの課題を抱えている。	・地域の農産物や加工品を販売することで、メンバーのモチベーション向上、地域活性化や今後の活動拡大につなげる。	・地域支援企画員が県内外のイベント情報提供を行うとともに、備品等の購入及び関係団体との連携に関する相談等に応じている。			・サニーマート(県内外)への出店を継続的に行う等、販路が確保されつつある ・会員が、移住者等への参加を積極的に呼び掛け、マンパワーの一定維持につながっている。	
6	土佐市		やさい畑～potage～	・平成27年4月に、JAとさし高岡女性部、とさし旬物クラブ、とさ野菜ソムリエの会の3グループにより、「やさい畑～potage～」を結成。 ・当グループは、土佐市の集客施設であるドラゴン広場を拠点に農産物等を加工・販売することで、ドラゴン広場及び土佐市農業の振興を図ることを目的に活動し、お弁当(土佐の伝承料理)の販売や加工品(焼き肉のたれ、手作りこんにやく)の製造・販売を行っている。	農産物の加工品、弁当		○ NO.19	・安定供給のための生産体制の確立 ・組織を構成する各グループ間での連携強化 ・情報発信による認知度の向上	・産振アドバイザーの活用によるお弁当や加工品の商品力及び売上の向上 ・ドラゴン広場をフィールドに活動することによる集客力向上	・H27地域づくり支援事業補助金(小さなビジネス)による財政的な支援 ・食品営業許可申請に関するサポート ・産振アドバイザーの派遣	・地域支援企画員及び地域おこし協力隊が、加工品開発の検討会に参加し、新商品(ドレッシング)の開発や既存商品のブラッシュアップについて支援。	・H27地域づくり支援事業補助金を活用して、商品(お弁当・焼き肉のたれ)の開発・ブラッシュアップを実施 ・お弁当の売り上げ約78千円(H27.8/2, 8/18, 8/28, 9/11の4日間) ・焼き肉のたれの売上約50千円(H27.4～8月) ・一木こんにやくの売上約7千円(H27.9月) ・ドラゴン広場の調理室及び加工場の稼働率向上 ・新たなお客様の開拓	・焼き肉のたれのブラッシュアップ ・新商品案の開発(柑橘ドレッシング) ・お弁当の売上約20千円(H27.10/4, 2月、3月に販売予定) ・焼き肉のたれの売上約55千円(H27.9月～H28.1月) ・一木こんにやくの売上約49千円(10月～1月の毎月第1木曜)	

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	須崎地区	大間地区	JA土佐くろしお女性部	・JA土佐くろしおの女性部が無添加と国産原材料にこだわった「手作りすさき味噌」を市内の直販所等で販売している	手作り すさき味噌		○ (NO.4)	・味噌製造時の作業負担軽減 ・安定供給できる生産体制の構築 ・次の世代への加工技術の継承	・研修への参加促進 ・アドバイザー派遣による商品のブラッシュアップ ・若手生産者の味噌作りへの参加による活性化(新メンバー募集) ・販売促進に向けた新直販市での試食販売の検討	・補助事業等の紹介 ・農産物、加工品の売り方・磨き方に関する講習会の紹介 (取組主体の動向) ・直販所統合後の需要に応じた生産計画の検討 H28目標 1,000kg ・自動発酵機整備予定 (H27地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)活用)	・地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)への申請支援 (取組主体の動向) ・直販所統合後の需要に応じた生産計画の検討 H28目標 1,000kg ・自動発酵機整備予定 (H27地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)活用)	・9月末販売額:234千円(対前年比97%) 9月末製造量:372kg(対前年比100%) ・販売所:直販所(くろしお市)、JA土佐くろしお資材センター、須崎小学校	・12月末販売額:381千円(対前年比106%) 12月末製造量:924kg(対前年比126%) ・販売所:直販所(くろしお市)、JA土佐くろしお資材センター、須崎小学校	・販売額、製造量: (H26) 482千円 924kg ・販売所:直販所(くろしお市)、JA土佐くろしお資材センター、須崎小学校
2	中土佐町	大野見地区	大野見七面鳥生産組合	・S50年代後半から生産に取り組み、当初10戸で行っていたが、現在3戸で約400羽を生産。 ・町内外のイベント販売、または飲食店、個人(クリスマス用に県内外発送)の注文販売を行っている。	七面鳥(冷凍保存) 細切れ(300g入り) バーベキュー串用 骨付きもも肉等			・安定供給できる生産体制の構築 ・生産技術の向上、支援 ・販売単価の抜本的見直し ・七面鳥自体の知名度の向上 ・食肉処理施設の早期改善	・アドバイザーの派遣等による商品の磨き上げ ・直販所や量販店への橋渡しによる販路拡大 ・生産者の意識改革(販売促進及び食品衛生管理) ・地域産業としての位置付けのための地元雇用拡大	・販路拡大への支援(樹高南食品(5/8、27)への販売促進) ・現地視察-高知県特産品販売(7/2、8/20)、旬蔵(6/25・県名古屋事務所同行)、(樹高美フーズ(8/20・同左)) ・依屋よさこいダイニング、焼鳥の田(東京)への営業活動(7/23) ・高知市役所への販売活動(7/30) ・ピエーノ(イタリア料理店)への中越総括と販売促進(9/17) ・食品生産管理(食品衛生管理)研修(5/27、7/2、29) ・生産者組合定例会及び販売戦略会議等の開催(4/30、6/9、7/9、7/30、8/5、13、9/14) (取組主体の動向) ・イベント等への出店 4/19アメゴ釣り祭、5/2～4大正町市場、5/17かつお祭り、5/19こだわり農産物展示・相談会、7/25大野見荘祭り、8/13ほのぼの大野見夏祭り大会、8/15みどり市、8/15上ノ加江納涼夏祭り、9/20～22大正町市場、	・販路拡大への支援 高知市役所、県庁等への販売活動(10/15、12/22) ・草やへの営業活動(10/15、11/19、20)、ラ・ヴィータへの営業活動(10/29、11/10) ・食品生産管理(食品衛生管理)研修(11/10)、食品表示基準説明会(10/15) ・生産者組合定例会及び販売戦略会議等の開催(10/9) ・広報活動 FM高知事前打ち合わせ(11/27)、クリスマスに向けた放送録音(12/2)、放送日(12/19) ・イベント等への出店 10/18しんまいフェスタ、10/23～25ふるさとまつり、10/25久礼大正町市場100年祭、11/1米こめフェスタ、11/22上ノ加江黒潮ふれあい祭り	・7月末売上高:93万円(対前年比:95.87%) ・バック袋を刷新する際、販売価格の見直しを行った。 ・消費者が手軽に買求められるよう、少量パック商品の追加や、希少部位の商品PRIにより、売上増につながった。 ・町内外の新たなイベントへの出店により、新規購入につながるなど、マスクの反響により問い合わせが多くなっている。 ・依屋(高知市本社)の東京赤坂店との定期取引や樹高南食品を通じての焼鳥の田(東京麻布十番)との新規取引に加え、県名古屋事務所からの現地視察を含めた新規顧客の開拓が進むよう、支援していく。また、高知空港での販売が開始した。 ・2月に北海道滝上町が来町し、現地視察及び意見交換会を実施した。この機会を通じて、近親交配による問題解消に向け、相互に卵の交換を5月に行った。 ・生産者組合定例会及び販売戦略会議等を開催し、また、町外への販売促進に向けて食品衛生管理研修に生産者組合全員で参加生産者の意識改革が少しずつではあるが、図られてきた。 ・販売戦略の冊子を作成することにより、「しまんとターキー」を売り込めるようになり、現地視察等にも対応できるようになってきた。	【成果等】 ・12月末売上高:473万円(対前年比:97.3%) ・新規開拓により、ブロック131kg他内臓等多数注文あり ・12月に久礼保育所に食育授業と称し、七面鳥の串焼きの試食を行った。地域の子供たちに食べてもらうことにより、食育から地産池消への波及効果が期待できる。 ・食肉処理施設においては、食肉検査所及び須崎福祉保健所が現地検査を行い、施設の改修等改善指導を行ったことにより、生産者組合及び役場と早期改善に向けて協議していかねばならない。 ・県名古屋事務所からの紹介による新規取引が開始した。	
3	梶原町	初瀬地区	鷹取キムチの里づくり実行委員会	・韓国との交流をきっかけに平成14年度から製造販売を開始。 ・県内ではサニーマートを中心に販売。ネット販売もあり。 ・地元高校生が育てたキャベツを使ったキムチを開発。 愛媛県久万高原町の道の駅「天空の郷さんさん」で、H26.8月から販売開始。 ・イベントへの出店。(梶原グルメフェスタ、四万十町こめこめフェスタ) ・「集落活動センターはつせ」の活動の一環として、チムジルバン・レストラン鷹取がH27年3月にオープンし、レストランの食材やお土産として販売。	鷹取キムチ(白菜、切り干し大根、チャーテ、ハクチ) 韓国風鷹取ドレッシング 焼肉のタレ	◎	○ (NO.37)	生産量に余力があるものの、主に県内での販売にとどまっている。	販路拡大	・イベント情報の提供 (取組主体の動向) ・チムジルバン・レストラン鷹取オープン(H27.3) ・梶原グルメフェスタへの出店(予定) ・四万十町こめこめフェスタへの出店(予定)		・キムチがレストランの食材に使用されるとともに、土産品として販売増につながっている。		

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
4	津野町	郷地区	郷地区活性化委員会	<p>・平成24年4月に地域づくり団体の郷地区活性化検討委員会を設立し、地域の産品を使った加工品づくりを行い、地域内外のイベント等で販売している。また、交流イベント(清流保全パートナーズ協定、山の日推進支援事業、出合いのきっかけ応援事業)に取り組んできている。</p> <p>平成27年6月に集落活動センター「奥四万十の郷」を開所し(平成27年5月、運営組織を改称、「郷地区活性化委員会」となる)、新たに活動の拠点となる加工所、農家レストランの整備による交流人口の拡大を目指している。</p>	里芋コロッケ、ズイキ料理、よもぎまんじゅう、山菜等地域の産品を使った加工品	◎		<p>・会長退任(体調不良)に伴う地域の気運の低下</p> <p>・集落支援員の雇用と運営体制での役割分担</p> <p>・運営主体団体としての組織づくりの再編</p> <p>・安定供給するための体制や仕組みの確立</p>	<p>・施設整備後の運営に関する話し合い</p> <p>・組織体制の再編(会則・役員再選、会員の明確化等)</p> <p>・アンテナショップや直販所への出荷</p> <p>・集落活動センターにつながる取組として農家レストラン、仕出し、弁当、高齢者支援等の事業展開を模索</p>	<p>・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介</p> <p>・イベント情報の提供及び開催支援</p> <p>・役員会・調理部会・総会等開催支援</p> <p>・勉強会・研修会・視察・交流支援</p> <p>・「不入の茶」パッケージデザイナーとの調整</p> <p>(取組主体の動向)</p> <p>・役員会・総会(10/19、26、11/19、12/4、17、1/22、2/9、19)</p> <p>・山の日推進事業(10/24長沢山ウォーキング)、出合いのきっかけ応援事業(11/7郷で会コン)実施</p> <p>・集落支援員の就任(12/15)</p> <p>・集落支援員との農家レストラン運営に関する話し合い(1/15)</p> <p>・地域づくりアドバイザー(満天の星、浜川由紀統括マネジャー)を2～3月に導入予定(2/4)</p>	<p>・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介</p> <p>・イベント情報の提供及び開催支援</p> <p>・役員会・総会等開催支援</p> <p>(取組主体の動向)</p> <p>・役員会・総会(10/19、26、11/19、12/4、17、1/22、2/9、19)</p> <p>・山の日推進事業(10/24長沢山ウォーキング)、出合いのきっかけ応援事業(11/7郷で会コン)実施</p> <p>・集落支援員の就任(12/15)</p> <p>・集落支援員との農家レストラン運営に関する話し合い(1/15)</p> <p>・地域づくりアドバイザー(満天の星、浜川由紀統括マネジャー)を2～3月に導入予定(2/4)</p>	<p>・集落活動センター運営主体「郷地区活性化委員会」立ち上げ(5/22)</p> <p>・集落活動センター奥四万十の郷開所式(6/14)</p> <p>・新パッケージ「不入の茶」を開所式の土産として披露、企業等に販売</p>	<p>・集落活動センター「奥四万十の郷」運営計画策定</p> <p>・集落支援員を中心に、新たなビジネス(高知精工との協働事業等)の模索</p> <p>・不入の茶販売額:251千円(H27)</p>	<p>・不入の茶販売額:174千円(H26)</p>
5	津野町	久保川地区	久保川生活改善グループ	<p>・山の幸を活かした華やかな山菜・野菜のにぎり寿司は、昭和61年には「全国ふるさとおにぎり百選」に選ばれる。また、平成2年にはロサンゼルスで開催された高知県特産農産物フェアに参加し、「海を渡った田舎ずし」として評判になった。</p> <p>・グループの高齢化が進み、味噌については直販所等での通年販売であるが、焼肉のたれは夏期のみ、田舎寿司はイベント等での販売になっている。</p>	味噌焼肉のたれ田舎寿司	☆		<p>・後継者の育成と機器の高度化</p> <p>・後継者が育つまでの事業の継続</p> <p>・地区での話し合い</p> <p>・地域づくり支援事業(小さいビジネス)の導入</p>	<p>・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介</p> <p>・イベント情報の提供</p> <p>(取組主体の動向)</p> <p>・ふるさとセンター、満天の星等の味噌等の販売</p> <p>・イベントへの出店</p>	<p>・地域づくり支援事業(小さいビジネス)申請書作成支援</p> <p>・アドバイザー制度・研修会等の紹介</p> <p>・イベント情報の提供</p> <p>(取組主体の動向)</p> <p>・ホイラー(みそ加工)、業務用冷蔵庫の整備(H27地域づくり支援事業費補助金(小さいビジネス)活用)</p>	<p>・次の世代がイベント参加など部分的に協力を始めた</p>	<p>・H27地域づくり支援事業費補助金(小さいビジネス)活用)の導入を機に地区で話し合いの結果、以下のとおりの進展があった。</p> <p>①金銭的な支援</p> <p>②新たな会員の参入(H27:2名、H28:1名)</p> <p>③奥四万十博への参加</p> <p>④新イベント開催計画の策定</p>	<p>・みそ販売額:945千円(H26)</p> <p>・田舎寿司販売額:429千円(H26)</p>	
6	津野町	船戸地区	せいらんの里(堂好海せいらん)	<p>・平成17年4月に高知県の四万十源流センターの有償貸与を受けて「せいらんの里」として宿泊施設を運営する傍ら、高齢者に対する地域食材を使った一品惣菜の移動販売、最近では社協の委託を受けた配食サービスを注文に応じ、月・火・金・土・日の週4日対応している。</p> <p>・特に冬場は道路が凍結するため休業を余儀なくされることがあり、船戸地区の旧船戸小学校付近の空き施設や集会所等で、移動販売・配食等の住民による福祉的な活動に関する事業を検討してきた(地域づくり支援事業による船戸地区活性化計画策定WS実施)</p> <p>・WS後、40～50代の参画があり、これまで70代の高齢者を中心とした運営組織が活気づいてきた。</p> <p>・雇用の場の確保や事業拡大するため、地域づくりアドバイザーによる支援を受け、施設の在り方を見直し、小規模改修を行い、平成26年4月よりランチビュッフェを始め、悪路・台風災害などの困難もあったが、H26.4/7～H27.3/31までで1,471名の利用があった。</p> <p>・客のニーズに応じて、前日までの予約を受けて毎日開催。ランチビュッフェの取り組みにより、弁当・仕出しの要望も増えている。</p> <p>・ランチビュッフェと同時にSNSでの情報発信を本格的に始め、県外からの宿泊も増えている。</p>	ランチビュッフェ地場産品による一品惣菜・仕出し弁当・皿鉢配食サービスよもぎのおやしそ茶	☆		<p>・運営体制の強化</p> <p>・調理関連機器の更新</p> <p>・施設移譲(県⇄津野町)</p> <p>・耐震化を含めた施設改修</p> <p>・船戸地区地域づくり団体としての承認</p> <p>・研修機会の提供</p> <p>・イベント情報などを通じた意欲の醸成により地域の協力者を増やす。</p> <p>・安定的な運営</p> <p>・地元雇用づくり</p>	<p>・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介</p> <p>・イベント情報の提供</p> <p>・イベント開催支援</p> <p>・マスコミへの働きかけ(高知新聞等)</p> <p>(取組主体の動向)</p> <p>・イベントの主催・協力(茶畑ウォーキング、清流保全パートナーズ協定事業、七夕まつり)</p> <p>・イベントへの出店</p> <p>・せいらんの里(宿泊施設)運営</p> <p>・仕出し・弁当・配食サービス</p> <p>・ランチビュッフェ</p> <p>・せいらんの里自主イベント(七夕、ビアホール)</p>	<p>・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介</p> <p>・イベント情報の提供</p> <p>・イベント開催支援</p> <p>・マスコミへの働きかけ</p> <p>・土産物開発</p> <p>・研修支援</p> <p>(取組主体の動向)</p> <p>・イベントの主催・協力(11/8源流点ウォーキング⇒天候不良のため中止、11/22堀内佳人権ふれあいコンサート)</p> <p>・イベントへの出店</p> <p>・せいらんの里(宿泊施設)運営</p> <p>・仕出し・弁当・配食サービス</p> <p>・ランチビュッフェ</p> <p>・せいらんの里自主イベント(ひなまつり)</p>	<p>・ランチビュッフェ(予約により毎日開催)の定着(H27.4～9 681名 前年同期比70.8%)</p> <p>・組織が若返り、事業(ビュッフェ・仕出し・弁当・高齢者への配食サービス・イベント等)が拡大している</p> <p>・船戸地区地域づくり団体の再編、部会化</p>	<p>・ランチビュッフェは受け入れ人数よりも、おもてなしを徹底して運営。(H27.10～12 214名 前年同期比56.0%)</p> <p>・組織へ30歳代の方が1名加入した。</p> <p>・奥四万十博に向けて新たな土産物を開発中(木工製品)</p>	<p>・ランチビュッフェ:1,471名(H26)</p>	

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置付け: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置づけ	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
7	新規 津野町	白石地区	白石地区活性化検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・こんにやく・そばはイベント等で販売。 ・H27年度に「高知県立大学との域学共生事業」による地域活性化プランを策定し、地域づくりを進めている。 ・「地域創生に向けて“がんばる地域”応援事業」活用による白石地区集落活動拠点施設にピザ釜を製作(高知県立大学清原ゼミ)し、今後の活用を検討している。 	こんにやく、そば、ピザ	☆		<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の構築 ・交流人口の拡大 ・調理関連機器等の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県立大学との協働による地域活性化プランの提案 ・主体的・継続的の活動計画の策定 ・体験メニューとしてのビルトアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介 (取組主体の動向) ・高知県立大学との域学共生事業(7/18～20) ※地域課題に対して住民と学生が協働して課題解決の仕組みづくりを行う事業 7/18 地域資源発見…風の里公園、白石地区ミニ88ヶ所 7/19 地域資源発見…集落巡り、聴き取り調査、こんにやくづくり体験、地域住民とのWS、懇談 7/20 アメゴ料理体験、おばちゃんカフェメニュー試作、WSまとめ発表、提案 ・しらいし物語ワンナイトピアホール(8/8) ・佐川町尾川 集落活動センターたいこ岩のピザ釜視察(8/18) ・ピザ小屋製作(8/19～) ・高知県立大学生による集落聴き取り調査(9/20) 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業・アドバイザー制度・研修会等の紹介 (取組主体の動向) ・しらいし秋まつり ・清流保全パートナーズ協定事業「蜚や川魚の住める新荘川を取り戻し隊」実施(11/15) 【津野町集落を元気にする補助金】 ・ピザ小屋完成(11/10生コン打ち、～11/17) 【地域創生に向けて“がんばる地域”応援事業】 ・ピザ釜完成(11/21) ・高知県立大学生による集落聴き取り調査(11/22) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生を受け入れることで、地域(おもてなし)力を再確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピザ小屋は昔の青年会の主要メンバーが集まり、地域の力が再結集された。 ・ピザ釜・小屋の完成を通じて地域づくりへの関心が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清流保全パートナーズ協定事業「蜚や川魚の住める新荘川を取り戻し隊」に初めて取り組み、清流保全活動とともに地域外(県立大ほか)との交流を実現した(H26)。
8	四万十町	平串	株式会社サンビレッジ四万十	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリーの年間生産量(栽培面積20a)により商品化できる数量が限られている。 ・シロップを道の駅あぐり窪川へ販売しており、かき氷やアイスクリームに使用されている。 ・ブルーベリーを使用した大福が商品化され、あぐり窪川で販売されている。 	ブルーベリージャム ブルーベリーシロップ	☆	○(NO.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・安定供給できる生産体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣等によるパッケージの改善や商品のブラッシュアップ ・注文生産できる販売先の確保 ・集落活動センターとの連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時) (取組主体の動向) ・6月～8月 ブルーベリー園での摘み取り体験が好評(入園者H26:344人⇒H27:520人) ・ジャムの製造は3回(8月末現在)、道の駅あぐり窪川、JALまんとみどり市、ゆういんぐ四万十で販売。 ・既存の取引先に加え、県内洋菓子店へ定期的に冷凍ブルーベリーを販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時) (取組主体の動向) ・ブルーベリー園での摘み取り体験はシーズンオフ。 ・ジャム、シロップの製造は月1回。 ・高知市内の喫茶店にブルーベリージャムを販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリー園での摘み取り体験に、老人ホームやケアハウスなどから来園があり客層が広がっている。 ・H27年度はブルーベリー祭りを開催し、町内外からの集客があった。 ・H28.3月12日開所予定の集落活動センター加工所にて、ブルーベリーを用いた商品の製造を考えており、センターとの連携が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリー園での摘み取り体験が好評。 H25入園者数:187人 H26入園者数:344人 	
9	四万十町	本堂地吉	四万十さいあい(武市由美)(五縁の会)	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十町地域資源活用協議会(加工チーム)で生姜を使用した商品開発を行った。 (最終工程(真空パック)のみ、地吉で四万十さいあいと五縁の会が共同で実施している。) 	四万十さいあい・四万十しょうがのあまからに(米豚、熟鶏、椎茸、米豚+椎茸の4種類を製造)(五縁の会:しいたけの1種類を製造)		○(NO.16)	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な生産体制の構築 ・販路開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣等による商品のブラッシュアップ ・販売先の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時) ・6次産業化普及活動推進事業の活用による支援 (取組主体の動向) ・4種類×100パック、2回/年程度製造 ・販売先 町内の道の駅、みどり市、イベント販売 ・近隣の生産者から、しょうがのスライサーを借用し、作業の効率化を図っている。(手切り4h×4人⇒スライサー1h) ・製造作業に慣れてきたことから作業効率が上がっており、生産量増加に向けて検討を開始。 ・土産用として、9月にピン入りを試作。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会、研修会の案内(随時) ・6次産業化普及活動推進事業の活用による支援 (取組主体の動向) ・10月 ピン入りの菌検査の実施。 ・商品の売行き状況の確認と販路拡大していく商品の絞り込み ・ピン入り横ラベルのデザイン検討と販売先、売価の設定の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に生産を行い、直販所やイベントを中心に販売を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品4種類のうち、売れ行きの悪い「鶏肉入り」の製造を中止し3種類を製造販売していく。 ・ピン入り商品を土産用として販売していく計画を立てることができた。 	

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり 地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
10	四万十町	礪山	JA四万十女性部ときめき家	・H13頃から四万十産大豆を使用した味噌や豆腐作りを始め、主に、冬場から春にかけて加工を行っている。	ときめき味噌		○ (NO.11)	・安定供給できる生産体制の構築	・アドバイザー派遣等による商品のブラッシュアップ ・研修への参加促進	・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時) (取組主体の動向) ・自動発酵機整備(H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)活用)	・講習会等の案内や補助事業の紹介(随時) (取組主体の動向) ・味噌の製造は冬場がピークであり、H26に導入した自動発酵機を活用し、ほぼ毎日作業を行なっている。	・味噌製造にかかる人員を確保するとともに、自動発酵機を12月末に整備し本格的な生産を開始した。	・製造した味噌は、JA四万十みどり市のほか、道の駅あぐり窪川、とさのさと、高知市内のホテル等へ出荷している。	・H26.12月に自動発酵機を導入したことで本格的な生産を開始した。 ・ときめき家売上 H25: 3,018千円 H26: 2,432千円 (注)味噌の他、大豆関連商品を含む売上金額。
11	四万十町	大正江師	株式会社エコロギー四万十(ウエル花夢)	・H21頃から大正駅で土産物として販売するために製造を開始した。 ・ウエル花夢のキャンプ場の業務の合間に、スタッフ2人で、依頼があった時に加工している。 ・プリンは、添加物を使わず手作りしている。 ・シフォンケーキは、四万十産の米を石臼で挽いて米粉100%で作っているため、小麦アレルギーでも安心して食べられる。	なめらかプリン(プレーンタイプ、黒糖タイプ、生姜入り)米粉シフォンケーキ			・販売先の確保	・アドバイザー派遣等による商品開発 ・直販所や量販店への橋渡しによる販路拡大	・(株)エコロギー四万十も加わっている奥四万十元氣プロジェクト(四万十町北部地域)の会へ参画 (取組主体の動向) ・夏場はウエル花夢の本業が忙しく、プリンやシフォンケーキの販売ができなかった。 また、ピザ窯ができたことにより、ピザ焼き体験の希望者が増え、プリン・シフォンケーキへ手が回らない状況 ・奥四万十元氣プロジェクトでの連絡協議により、下津井、中津川地区での地区行事へは商品を提供	・ウエル花夢が開かれたすみずみツーリズムの会(エコロギー四万十も会員)への出席 (取組主体の動向) ・ピザ焼き体験販売と同時にプリンを売り出す。	・四万十の蔵での販売は閉店まで取り組んだ。 ・下津井地区のホタルまつりや夏祭りに提供した。	・中津川の『もみじまつり』に提供できた。 ・協力隊と共に大正駅前にぎわい拠点でのクリスマスイベントで販売 ・すみずみの会でピザとプリンを提供できた。	
12	四万十町	地吉	五縁の会	・主に「しまんとドラマ」を通して、道の駅四万十とおわ、道の駅大正、しまんとの蔵で販売。 6月からはしまんと蔵の閉店に伴い、道の駅あぐり、JA四万十みどり市で販売。 ・売上が伸び悩んでいる。	くびっ茸(柚・山椒・からし)菓子パン干し椎茸しいたけ鰹煮		○ (NO.16)	・商品のブラッシュアップ	・直販所や量販店への橋渡しによる販路の拡大 ・研修等への参加 ・生産体制を確立	・研修案内、「まるごと高知」報告会の照会等。 ・6次産業化普及活動推進事業の活用による支援 (取組主体の動向) ・県域流通へ拡大させる商品を『くびっ茸』に絞り込み、販売方法等の検討を行った。 ・販路開拓に向けた営業活動の実施。 ・『くびっ茸』を使った料理の試作及び試食会の実施。 ・POP作成及び売れ行き状況の確認。 ・小袋包装の試作。 ・菌検査の実施。	・6次産業化普及活動推進事業の活用による支援 (取組主体の動向) ・販路拡大による売行き状況の確認 ・POP効果の検証 ・城西館向け新パッケージの検討 ・椎茸冷凍加工の試作、検討	・営業活動により道の駅ならへ新たに販路が開拓できた。 ・8月から『くびっ茸』のPOPを置いての販売を開始。 ・菌検査の結果、賞味期限を1年間に延長することができた。 ・9月の商談会(南国サーブエリア・城西館・山翠園)に向けて、食べ方の提案や包材の検討、価格設定等の整理ができた。 商談後、城西館、土佐山田ショッピングセンターに『くびっ茸』、『しいたけの鰹煮』を納品。	・POPを置くことにより、売上アップにつながった。 ・城西館に納品している『くびっ茸』は、今後、新パッケージでのテスト販売を実施予定(商談済み)。 ・椎茸冷凍加工については、工業技術センターの指導のもと製造にあたっての注意事項等の確認を行うことができた。	
13	四万十町	十和地区	(株)十和おかみさん市加工部	・加工品部会で商品開発等の検討を重ねており、今後も消費者の意見を取り入れながら新商品の検討をする。 ・各商品は道の駅とおわ、道の駅あぐり、しまんとハマヤで販売している。 高知のアンテナショップ四万十の蔵の閉店となったが、地元での直販所を設けることができた。	辛いジャン袖酢しいたけコロッケ椎茸のたたきタレ			・安定供給できる生産体制の構築 ・トラブル対応のスキルアップ	・アドバイザー派遣等による商品開発 ・研修等への参加促進	・研修案内及び、定例役員会、生産者会等への出席 ・直販所整備のための補助金の支援 ・「まるごと高知」報告会の照会 (取組主体の動向) ・直販所「とおわの台所」の設備が完成し、経営改善計画を実行するための整備を行う。 ・「椎茸のたたきタレ」が順調に売れ、加工部の参加者を募集	・研修案内及び、定例役員会、生産者会等への出席 (取組主体の動向) ・豆腐づくり体験イベントの実施 ・料理教室の実施 ・お弁当づくりの開始	・道の駅とおわでのバイキング(毎週水曜日、連休等のイベントでは道の駅とコラボバイキングを実施) ・「椎茸のたたきタレ」のレシピ集を作成した。	・おかみさん市バイキングが好評で120～130人の来客数 ・『ふるさと納税』での売上げが増加 ・「お弁当の予約注文が入るようになる	・蒸しパン(イベント商品)は好評で、常時「とおわの台所」で販売することとなった。 H26売上: 16,867千円

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【高幡地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
14	四万十町	十和地区	NPO法人 RIVER	<p>・新聞バッグは、道の駅四万十とおわのレジ袋として使用され、自分で作成したい人向けの「レンジ付きバッグ」も道の駅や高知市のアンテナショップで販売している。</p> <p>・インストラクター養成講座の開催、全国公募の新聞バッグコンクールの展示活動などにより、日本国内だけでなく海外でも知られるようになった。</p>	しまんと新聞バッグ			<p>・販路の開拓</p> <p>・新聞バッグの作り手不足 (量販店などで提供する新聞バッグの作成時の人手不足→四万十町内の人材を確保したい)</p>	<p>・ソーシャルビジネスモデルの開発</p> <p>・作り手と使い手の共感の普及</p>	<p>・活用可能な制度の紹介 (取り組み主体の動向)</p> <p>・プロジェクト会議の開催</p> <p>・普及活動 インストラクター養成 9月・11月・12月・1月・2月 ワークショップ 新聞バッグコンクール 10/31 イベントでの新聞バッグ活用</p>	<p>・新聞バッグコンクールの広報</p> <p>・ワークショップの参加 (取組主体の動向)</p> <p>・ワークショップの開催 9/17・10/26・12/1 11/21・2/20</p> <p>・おでかけ養成講座の実施 10/31</p> <p>・インストラクター養成講座の開催 9/22～23・11/24～25・12/19～20・1/16～17・2/16～17</p>	<p>・東京・東急百貨店吉祥寺点でのNEDAY新聞バッグイベントを(4月、8月)実施できた。</p> <p>・インストラクター養成講座は5月、6月、7月に開催できた。 新たに21名のインストラクターが誕生</p>	<p>・四万十町内(大正中津川地区)の住民が参加意欲を示した</p> <p>・インストラクター養成講座の開催により、新たに18名のインストラクターが誕生した (今年度誕生計:39名、全体合計:416名)</p> <p>・イベントでの新聞バッグ活用 (ワンデー新聞バッグ) 倉本聡:演劇『屋根』2/18 800枚 高知トヨタ:プリウス広報 300枚 自民党高知本部:資料配布 50枚</p>	<p>・H26年度より町内外の企業等が連携したプロジェクトを立ち上げ、新聞バッグを全世界に発信しソーシャルビジネスへの取り組みを開始した。</p>
15	新規 四万十町	大正地区	JA高知はた女性部	<p>・四万十うなぎ株式会社販売する「四万十うなぎちまき」を道の駅四万十大正で「であいの里」を運営する農協女性部のグループが町内産の材料を使用し加工している。</p> <p>・県内外での営業を行なっていることや、ふるさと納税の返礼品としても人気が高いことから今後も売上の伸びが期待される。</p>	四万十うなぎちまき			<p>・衛生面の強化</p> <p>・作業の効率化</p>	<p>・衛生管理の強化</p> <p>・生産体制の確立</p>					

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
1	宿毛市	中角	農事組合法人ファームなかつの	高齢化、後継者不足などの課題に対し、集落営農を法人化後継者育成や耕作放棄地の解消、農地の集約化につなげ、将来に向けて農地を維持管理できるしくみづくりに取り組む。主力は米生産販売。地域の農地約2/3を管理運営中	米・野菜の生産販売		☆	・市外の米販売先情報が手元になく、販路拡大手段に乏しい。	・米販売先を確保し、6次産業化による収益向上を図る。 ・米・野菜(ブロッコリー)の加工品検討 ・H28野菜加工用の機械整備(県単補助金導入予定)	・幡多農業振興センターと連携して、活動状況の情報共有と情報の提供	・ブロッコリー作付けの為に機械(移植機、畦立機)について平成28年度事業(高知県集落営農拠点ビジネス支援事業)を活用するため、市・振興センター・JAと協議	・市内販売により一定の売上げを維持(売上金額 630万円/年(うち、米の販売額 360万円))	・平成27年産の米売上371万円 ・地域内の農作業受託による作業料収入297万円 ・国事業(経営所得安定対策事業)による交付金収入884万円	・農業振興部のH25補助事業を活用して、米の貯蔵倉庫を整備 ・H26は自己資本で事務所を整備
2	宿毛市	沿岸部	すくも湾漁協 栄喜支所 女性部	・女性部を中心に敷網等で採捕されたイワシ類、養殖鰯を加工した商品づくり及び販売に取り組んでいる。	「魚のすり身天ぷら」 「キピナゴ天ぷら」 「鯛めし」 「鯛めしの素」		☆	・収益の出る商品を安定して製造・販売する戦略を策定し、推進する。 ・加工施設整備を希望しているが投資リスクが高い。	・主力商品の加工原価を低減し、収益向上を図る。	・宿毛漁業指導所と連携して、活動状況の情報共有と情報の提供 ・イベント出店サポート ・支援制度の紹介	・宿毛漁業指導所と連携して、活動状況の情報共有と情報の提供 ・産業祭出店サポート			
3	土佐清水市	三崎	JA高知はた三崎支所 女性部	・地域で収穫されるさつまいもが原料。 ・地域が持つ秘伝の製法と味を細々と伝承している。 ・取組主体はJA女性部であるが、系統外。 ・5～6人で市所有の施設を使い随時加工。 ・県内外問わず、主に受注販売だが、市内イベントでの出店販売や不定期ではあるが市内道の駅でも販売。 ・口コミ等で知った客やリピーターへの販売が主体。	「芋餅」の加工販売		☆	・販売(量)は、受注時の原料の有無に左右される。 ・加工体制及び商品の安全安心の向上	・受注に対応できる安定した原料の確保 ・加工体制の充実	・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介	・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介		・聞き取りの中でパッケージのリニューアルを考えていることが分かり、支援策等を検討中。	
4	土佐清水市	松尾	松尾さえずり会	・平成16年、地元有志や地区出身者らが集まり会を発足。 ・5～6人で随時加工。(受注生産) ・地区内の祭や祝い事での受注が多く、また、市内イベントでも出店販売。 ・活動範囲は市内レベル。	郷土料理である「ツブキの葉を使った押し寿司」の販売 (また、押し寿司づくりを体験メニューとしても提供)		☆	・メンバーの高齢化(健康体方面)により、安定した人員確保が困難な場合がある。 ・加工場の就労環境整備 ・後継者育成(※団体メンバーには後継者育成の意思は今のところなし。)	・現在の活動の安定継続	・市内イベントに出店する際の広報(チラシ配布等)及び販売時の運営サポート ・地域資源を活用したイベント開催サポート ・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介	・市内イベントに出店する際の広報(チラシ配布等)及び販売時の運営サポート ・地域資源を活用したイベント開催サポート ・地域訪問等による活動状況の確認	・活動が継続(12年目) ・地元内での受注販売やイベント出店等を通じて一定の売上を維持 ・原価率の見直しにより利益率が向上	・定期的な出店により、足摺海洋館の入館者数に寄与している。	
5	土佐清水市	立石	(株)山和 淡水	・ターナーが地域を元気(活性)づけたいとの想いから活動を開始。 ・作業には地域内の特に高齢者が参加。 ・アルバイト感覚での参加であるが、高齢者の生きがいづくりにもつながっている。 ・作業場には廃校舎を利用。 ・販売先は主に関東圏。 ※メダカの養殖(販売)やジャムの加工販売も行っている。	「笹の葉を使った器」の販売 「きし豆茶」の販売(予定)		☆	・組織づくりが必要 ・収益活動が成立するだけの生産、加工、販売の体制づくりが必要 ・拠点施設の整備が必要	・地域の収益活動へ。 ・コミュニティビジネスの確立⇒地域の自立へ ・移住促進や観光産業(交流人口拡大)への展開	・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介	・活動状況の確認	・活動(加工)の場として廃校施設を利活用	・活動(加工)の場として廃校施設を利活用	
6	土佐清水市	大岐	大岐はまぐり会	・地域の婦人会が主体となり、手作り味噌を製造。 ・現在は第三セクターへの納品のみ。 ・今後の活動資金・機材などの購入を考え、活動の拡大を図りたい意向。(組織の体力づくりを図るため、利益幅が大きい自主販売に取り組む。)	手作り味噌 手作り味噌を使ったタレ		☆	・商品パッケージの開発(磨き上げ含む) ・関連商品の開発 ・販売会に出店(販路開拓) ・資金の循環	・婦人会の経営基盤づくり ・地域の味噌作り文化の継承と担い手の育成	・支援制度の紹介 ・地域おこし協力隊の協力により、販路開拓及び販売促進に取り組む中。	・活動状況の確認	・補助金活用により新パッケージ完成 ・地元スーパー・パルにて販売	・地元スーパー、直販所等での販売継続	・H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)を活用。[商品パッケージ開発(磨き上げ)及び販促PR資材製作] ・H25売上40万→H26売上50万

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり
地域APの位置付け: ○=包括的な位置付けあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
7	四万十市	西土佐口屋内	しゃえんじ	・地域の女性グループ ・取組主体は「土佐の料理伝承人」に選定されている。 ・畜産の有効活用(「シカ肉の加工品」等)に取り組んでいる。 ・主体となる活動は、農家レストランの運営だが、加工品の開発(シカ肉コロッケ等)にも力を入れており、特にシカ肉の有効活用に取り組んでいる。 ・仕入は「くろそんむら」(黒尊川流域の5集落で組織)など	農家レストラン「しゃえんじ」の運営	☆		・加工場施設の充実 ・後継者の確保 ・原料となるシカ肉、イノシシ肉の安定的な確保 ・衛生的な環境づくり(バイキングの配置等) ・新メニューづくり(マンネリ化の打破)	・加工品のレベルアップ(品質やパッケージなどの充実) ・シカやイノシシの料理法研究 ・レシピ本をつくる(後継者のために) ・原価計算ソフトを活用し収益を見込んだ経営(収入を1.5倍以上にする)	・農家レストランの運営状況等の把握 ・地域イベントでの販促の支援 ・イベントや販促に関する情報提供 ・施設の提供(四万十市)	・補助事業申請に係る打合せ(来年度) ・イベント等の情報提供	・開業10周年を迎えた ・「食のアメニティコンテスト」にて農林水産大臣賞受賞 ・「よさこいジビエ」に登場(原料のシカ肉の確保については、シカ肉解体所を運営する「くろそんむら」との連携強化が必須であるため、くろそんむら」のシカの捕獲や解体の体制について課題解決に向けて協議中(四万十くろそん会議など) ・農業セミナー受講 ・猪コロッケ、鹿肉味噌、鹿肉味噌コロッケの提供開始 ・施設の管理が「地区」から「しゃえんじ」に移行予定	・農業創造セミナーに参加し、新商品(ぬか床セット)が完成。価格及び販売開始時期については現在検討中。 ・新スタッフの加入(2名) ・しゃえんじり広報紙発行開始	
8	四万十市	東富山	東富山を守る会	・H23農業創造セミナー参加をきっかけに、ひがしやまの商品化に着手し、現在は農家が個々に製造している。生産した羊、羊を加工したひがしやまのほとんどを四万十ドラマに出荷している。	「コンニャク」「干しシイタケ」「ひがしやま」の生産製造販売	☆		・機械や施設等の加工場を整備し、多くのものが参加できる仕組みづくり。 ・イノシシ、シカ等の被害(継続した防護柵等の整備)	・ひがしやまは商品としての確立したが、小規模(共同:15a、6個人:約40a)であるのですべて共同圃場にし、さらに休耕田を活用し、面積を増やしていく。 ・休校中の片魚小学校の校庭にひがしやまの干し場となるハウスを設置。教育委員会の許可も取得済み。	・取り組みの進捗状況の把握 ・補助制度等の情報提供	・取り組みの進捗状況把握	・共同栽培による原材料の羊の生産を試行したことで、数品種による特性や課題などを整理することができた。課題であった羊の品種や商品規格統一の取り組みができた。 ・四万十ドラマとの安定した取引を継続中	・12月末にひがしやま干場用ハウスが完成した。早速ひがしやまを干してみたが、気温と湿度が高かった。今後は扇風機を導入し、湿度対策を行う必要がある。	
9	四万十市	三つ又	三つ又ゆず加工グループ	・地域内のゆず(約4ha)の加工及び販売活動(市内直販所やイベント等) ・現在6経営体で取り組み、繁忙期には地域の婦人会の協力を得ているが、高齢者が中心で十分な販促活動ができていない。当面は現在の活動を維持していく。	地元ゆずを使った商品(柚子酢・濃縮ジュース・ポン酢等加工品を製造販売)	☆		・高齢化による人手不足のため販促活動が不十分 ・ゆずの木の植え替え時期での人手不足、苗木購入 ・現在4世帯での生産であるので、早急な後継者の育成が必要。	・販売先の拡大 ・後継者の育成(Uターン者があればグループへ勧誘していく) ・小夏の栽培(ハウス)開始	・ユズの収穫、加工品の製造・販売の状況の把握 ・イベントや販促に関する情報提供	・活動の現状把握 ・イベントや補助制度の情報提供	・現状の活動で精一杯である。 ・大用梅まつりでの販売活動 ・JAはた、サンリバー四万十での販売を継続	・ゆず収穫体験及び加工品づくり体験(幡多農業高生)(商品を幡多農市で販売) ・ぎんなん祭りでの販売活動 ・搾汁後の皮を使用した佃煮(シイタケ入)を大用中学校の生徒が三つ又の施設で調理している。	
10	四万十市	西土佐江川中組	西土佐中組「絆の会」	・地域有志により豆腐の加工を開始。現在の製造者は13名、全員が食品衛生責任者要講習習会を受講。 ・地元の大豆を使って手づくりの伝統豆腐を再現、地域内で定期的(現在は月3回)に販売(主に予約販売) ・県内イベントで「ふわふわとうふ」を実演販売(とうふの新しい食べ方を提案) ・おからを使った加工品(かりんとう、ドーナツ)の開発販売にも意欲的に取り組んでいる。 ・高齢者中心ではあるが体験交流などの取組も含めて意欲はある。	手づくりの「伝統豆腐」			・とうふは消費期限が短いため、販売先が限定される。 ・加工場は新設されるが、生産効率向上及び加工品増のために、生産加工設備の充実。 ・原材料である大豆の地域内での栽培	・ふわふわとうふの販売量及び販路の拡大(現在は、イベントでの販売や不定期ではあるが西土佐地域の小売店でも販売しているが、主に予約販売で月に3回ほど造る) ・道の駅での販売用の加工品のブラッシュアップ	・支援制度の紹介	・地域訪問等による活動状況の確認 ・支援制度の紹介	・道の駅よって西土佐(H27.4.10開業予定)で販売する商品開発ワークショップに参加(おからかりんとうのブラッシュアップ) ・とうふは地元で人気商品になっており、主に予約販売をしている ・「豆腐づくり体験」を幡多広域観光の進める体験型観光メニューの一つとして造成中	・道の駅開業に合わせて、現在月3回行っている製造を週3回に増やすことを検討中。 ・一丁150円の販売価格を、原材料費、加工費等を基に値上げし、賞金の向上を図る予定(幡多農業振興センターが支援。 ・2～3月中に接客に関する講習会を開催予定。	・H26地域づくり支援事業費補助金による生産加工施設建築
11	大月町	安満地	満天クラブ	・漁協女性部の活動 ・道の駅をはじめ、地域イベントや高知市内等での店頭販売等を実施。 ・高齢化が進行	てんぷら(魚のすり身天ぷら)			・地道に活動を実施している。世代交代は新たなキーマンの出現が必要	・新たな販路拡大 ・世代交代(若者の参入)	・宿毛漁業指導所、大月町役場と連携して経営状況の確認と要望に対する支援	・宿毛漁業指導所、大月町役場と連携して経営状況の確認と要望に対する支援	・大阪「土佐の宴」等に出店し、積極的に販促活動を実施・継続 ・調理施設整備の要望に対して、廃校調理室の利用調整を行い、商品加工を行っている。	・商工会に出店し、積極的に販促活動を実施・継続 ・県庁生協で実演販売	・商工会事業で視察研修を実施(H26)

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり 地域APの位置付け: ○=包括的な位置付けあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
12	大月町	柏島	柏島女性加工クラブ(漁協女性部)	道の駅をはじめ、地域イベントや高知市内等での店頭販売等を実施 ・高齢化が進行 ・販売金額約479万円/H25	てんぷら(魚のすり身天ぷら) アジのすり身ペースのコロケ			仲良しグループどまり ・組織の意識統一が弱く、地域づくり活動の意識が低い。 ・経営の悪化	新たな販路拡大 ・世代交代(若者の参入)	・宿毛漁業指導所、大月町役場と連携して経営状況の確認と要望に対する支援	・宿毛漁業指導所、大月町役場と連携して経営状況の確認と要望に対する支援	道の駅で、毎週日曜日に天ぷら等を販売	道の駅で、毎週日曜日に天ぷら等を販売 ・町内イベント等にも出店し、販促活動を継続中 ・県内小学校で魚食活動を実施	・商工会事業で視察研修を実施(H26)
13	三原村	柚ノ木	三原硯石加工生産組合	・三原村農業構造改善センターで、文鎮及び硯を展示・販売。 ・商工会のHPで、硯を紹介。 ・品質の良い原材料は豊富にある。 ・生産者が減少。	「三原硯」の展示販売	☆		生産技術の継承 ・販売戦略の構築 ・知名度向上	販路拡大 ・後継者育成	・後継者確保への取り組み支援 ・販路拡大へのアドバイス ・補助制度の紹介	・後継者確保への取り組み支援 ・販路拡大へのアドバイス	新規研修生1名 ・移住フェアへの参加(東京、大阪)	・移住フェアへの参加(東京)	
14	黒潮町	佐賀	森本みかん園	・海の潮風と南向きの圃地で育った美味しいみかんとして地元では有名であり、町内の直販所等で「潮風みかん」として販売している。 ・H26年度から、個人で「みかん狩り体験」の受け入れを行っている。 ・海の潮風と太陽に育まれて育った甘いみかんとして売り出しているが、愛媛県のみかんや県内の山北みかんなど、競合商品との差別化が十分に図れていない。 ・ハネものの活用ができていない。	「潮風みかん」			生産量の拡大 ・品質の向上(商品力のアップ) ・ハネものの商品化に向けた体制づくり	幡多地域の直販所や量販店等への安定供給 ・ハネものを活用した加工品の開発・販売	補助制度や商談会等の紹介	補助制度や商談会情報等の紹介	「もどりガツオ祭り」など町内イベントでの対面販売では完売することが多い。		・サンリバー四万十(四万十市)や黒潮町内の道の駅「なぶら土佐佐賀」、JA直販所と販売契約を結び、H26.10月～販売を開始している。
15	黒潮町	加持川	ともこ工房	昔ながらの「薪炊き」にこだわり、原料は自家製の米と麦のみを使用し、手間暇をかけて、「米あめ」を作っている。 ・家族だけで製造し、主に町内の直販所や四万十市内での販売だが、高知市内(てんこす)やネットでも販売している。 ・平成24年度には、町の産振補助金を活用し、パッケージや値段の改定、都内への販促活動を行った。 ・集落活動センターの「特産品づくり・販売」の取組に位置付けられている。 ・こだわりの商品を扱う業者等からオファーもあるが、原材料の不足等から対応できていない。	「米あめ」	◎		生産量の拡大(原料確保、設備整備の必要性等) ・商品バリエーション(固さ、形状等)の拡大 ・レシピ提案 ・食べ方提案等消費者への紹介・周知不足 ・(商品製造)技術の継承	こだわりの商品として、県内外の小売店舗等での取扱いを目指している。	補助制度、関連研修会等の紹介 ・大量生産などの商品製造・販売計画のための検討会参加 ・集落活動センター事業としての取り組み支援	補助制度や商談会等の紹介 ・農家民宿運営のためにクリアすべき手続き等の情報提供	町の黒糖生産組合の施設の寮を活用し、大量生産の可能性を探ったが、火力(薪→ガスバーナー)の問題で品質(味など)の管理、調整が難しいとの判断から活用を断念した。	・黒潮町産振補助金(町単)の申請・交付決定(主に、パッケージ等販売ツールの制作費用) ・農家民宿の開所(H28.2月オープン予定)	

【分類】 集落活動センターとの関連性: ◎=取り組み中 ○=取り組み予定 ☆=今後可能性あり

地域APの位置づけ: ○=包括的な位置づけあり ☆=今後位置づけられる可能性あり

「小さなビジネス」への取り組み状況等について

【幡多地域本部】

No.	市町村	地区名	取組主体	取組の説明	主要商品等	集活Cとの関連性	地域APの位置付け	課題	対策・方向性	支援の状況		成果		(参考) ～26年度の成果・状況
										4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
16	黒潮町	浮鞭	千鳥ヶ浜工房	・町内で採れるニラとカツオの端材を活用。 ・製造は主に家族で行い、販売は、「黒潮若手の会」等に依頼する場合がある。 ・現在は、主に、県内外のイベント及び町内の飲食店(2店)で販売をしている。 ・注文が多い場合は、ニラは端材では間に合わず、販売用の商品を活用することもある。	「カツオギョウザ」の製造販売			・人手不足のため製造量に限界 ・商品認知度の向上 ・商品のバリエーションの検討	・イベントでの販売だけでなく、幡多地域の飲食店等での取扱いの促進	・補助制度等の紹介 ・補助制度等の紹介	・補助制度等の紹介 ・補助制度等の紹介	・町内外のイベントに数多く出店し、観光客等に好評。 ・カツオぎょうざの他、黒糖関連商品の開発にチャレンジ中。		・西南大規模公園内の町有施設を活用し、飲食店の営業をH26.3月～継続実施。
17	黒潮町	佐賀	県漁協佐賀統括支所 女性部	・土佐佐賀の美味しいカツオのワラ焼きたきを食べてもらおうと、平成12～13年頃から漁師のおかみさん達を中心に港岸壁にテントやテーブルを設置し、たたき作りのイベント等を開催していた。 ・地元や県内だけでなく、県外の人達にもそのおいしさを知ってもらい、地元への交流人口を増やそうと、現在は年間通じて県内や岡山県、大阪府等県外の各種イベント等で実演販売活動を行っている。 ・平成25年度には、「まるごと高知」でテストマーケティングを行った。	カツオのワラ焼きたきの販売促進		○ (NO 4 6)	・売上の向上 ・活動を行うスタッフの高齢化(世代交代)	・県内外の各種イベント等での実演販売出展への活動支援	・補助制度等の紹介 ・イベント等の運営支援	・補助制度等の紹介 ・イベント等の運営支援 ・黒潮一番館の営業に係る会議への参加	・年間通じて、県内外でのカツオのワラ焼きタキの実演販売を実施。継続参加の県外のイベント等では、固定客がついている。	・県内外イベントへの継続参加(10/25:大阪池田市商業祭、10/30.31:まるごと高知、11/8:黒潮町まるごと産業祭、11/14.15:佐賀県鹿島市屋台村) ・第1回幡多フェア(11/28.29:岡山県津山市)への参加	・補助金(H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス))を活用し、イベント等で使用する備品(冷凍ストッカー等)を購入。 ・H26年度は、台風や日程調整の折り合い不調等により、イベント参加数は前年度より少なかったものの、補助金活用により購入した備品(冷凍ストッカー等)により、タキの鮮度管理や保冷剤の解凍防止、また、屋外等のイベント会場の設営負担が軽減された。
18	黒潮町	佐賀	土佐佐賀くろしお工房	・平成22年10月から、閉園した保育所を活動拠点として活動を開始した。 ・メンバーは、底びき網漁業者の家族(妻や兄妹)で構成。 ・漁獲量は比較的多いが、単価の安い魚をみりん干しやフライ、から揚げ用等へ加工製造し、販売を行っている。 ・メンバーによる個別訪問販売や、地元の道の駅、首都圏の水産卸・販売業者、県内外の居酒屋、各種イベントでの出展販売を行っている。 ・平成24年5月に、6次産業化における総合化事業計画の認定を受けている。	小魚の加工品の製造販売			・売上の向上 ・商品の品質管理 ・イベント販売の強化 ・人件費の向上	・売上の拡大に向けて、既に具体化している県内外の取引先との取引を継続していくとともに、新規顧客の開拓を目指す。	・補助制度等の紹介 ・補助申請書類等の作成支援	・商品の製造・販売の状況把握 ・イベントや販促に関する情報提供	・H27についても製品増産に向け、半製品、原魚保管のための保管庫増設予定	・地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス)申請書類の修正等に係る事業所、役場、県間の調整。	・補助金(H26地域づくり支援事業費補助金(小さなビジネス))を活用し、「ガスフライヤー」(調理器具)や冷凍ストッカー(保管設備)を購入。イベント時の大幅な売上げ増などもあり、売上高増(3,555千円(H25)→5,791千円(H26))と新商品の開発、新たなバイヤーとの取引が具体化した。
削除	三原村	下長谷、上長谷、狼内、下切、宮ノ川	どぶろく組	・7軒の農家が自らの田の米で醸造。 ・甘口と辛口がある。 ・販売金額 2,644万円/H26 ・正式名称は、「三原村濁酒特区」 ・三原村、商工会がバックアップしている ・各農家で販売し、全国発送もしている。イベントでの販売、幡多の直販所等へ出品。	「どぶろく」の製造販売	☆	☆	・7軒のどぶろく農家がそれぞれの考えを持ち、一丸と成った取り組みができていない。 ・酒類のため、販売方法及び販売先に制約がある	・買い物拠点「みはらのじまんや」で、7軒の農家で作るどぶろくを販売する。 ・新たな販路開拓 ・法人化等による組織体制の強化 ・地域APへの位置付け	【削除】 商談会等への出展による販路の更なる拡大や、法人化等による組織強化を図るため、産業振興計画の地域APに位置付けて支援することとし、小さなビジネス事業から削除する。				